



I 区平安時代集落址調査風景



II・Ⅱ区調査風景

第3節 土坑

本節では古代(奈良・平安)に帰属する土坑について記載する。時期の認定については調査時の覆土等からの判断を優先し、その他の遺構については出土遺物を加味して決定した。また調査区Ⅰ区・Ⅲ区・Ⅳ区の帰属時期不明な土坑については、周辺の遺構の広がりなどから考慮すると古代に帰属する可能性が高いことから本節で扱うこととする。

(1) I D14号土坑 (第131図、写真図版六一④)

本址は、調査区台地先端部の南斜面であるK-A-13・14Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は方形で、長軸方位はN-32°-Eを示す。規模は長軸1.25m・短軸1.14m・深さ13cmを測る。

本址よりの出土遺物は器種不明の土師器片が2点出土したのみであった。

(2) I D19号土坑 (第131図、写真図版六一⑤)

本址は、調査区北側の低地部であるB-C-13Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-9°-Wを示す。規模は長軸1.31m・短軸0.52m・深さ21cmを測る。また本土坑は底面にピットが検出された。規模は径40cm・深さ22cmを測る。

本址よりの出土遺物は土師器甕片が1点のみ出土した。

(3) I D26号土坑 (第131図)

本址は、調査区北側の低地部であるB-T-12Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は長方形で、長軸方位はN-34°-Eを示す。規模は長軸1.82m・短軸1.05m・深さ52cmを測る。

本址よりの出土遺物は内面黒色処理された土師器坏が1点のみ出土した。

(4) I D28号土坑 (第131図)

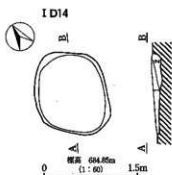
本址は、調査区最北の低地部であるZ-E-17・18Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-45°-Wを示す。規模は長軸0.98m・短軸0.83m・深さ41cmを測る。

本址よりの出土遺物は須恵器甕片が2点あった。

(5) II D1号土坑 (第131図、写真図版六十二③)

本址は、調査区中央台地の北斜面であるI-C-1Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-60°-Eを示す。規模は長軸1.27m・短軸0.90m・深さ80cmを測る。また、本址は覆土中より拳大の礫がまとめて検出された。

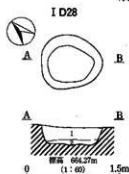
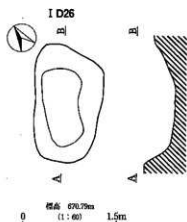
本址よりの出土遺物は須恵器甕及び坏片1点、土師器坏片2点が出土したのみであった。



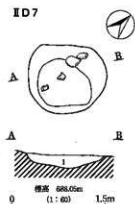
- 1層 灰黄褐色土(10YR4/2)
炭化物・にぶい黄褐色
(10YR7/3)岩盤ブロッ
ク(φ1cm大)を多量含
む。
- 2層 暗黄褐色土(10YR5/6)
粘質土。にぶい黄褐色
(10YR7/3)岩盤ブロッ
ク(φ1cm大)を含む。



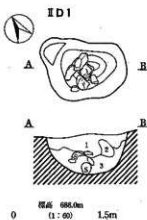
- 1層 暗黄褐色土(7.5YR2/3)



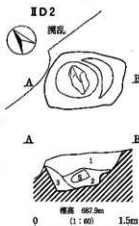
- 1層 褐色土(7.5YR4/4)
- 2層 褐色土(7.5YR4/4)
黄褐色(10YR5/5)のブロッ
クを多量含む。



- 1層 黒褐色土(10YR3/2)
パミス・ロームブロックを
多量、炭化物を少量含む。



- 1層 黒褐色土(10YR2/3)
しまりやや硬く、粘性
あり。ロームブロック
を多量含む。
- 2層 褐色土(10YR4/6)
しまり、粘性あり。
ローム土主体。黒褐色
土を含む。
- 3層 黒灰色土(10YR5/1)
しまり、粘性あり。黒
色の粒子を含む。ローム
土と黒色土平々であ
る。



- 1層 黒褐色土(10YR2/3)
しまりやや硬く、粘性あ
り。ロームブロックを多
量含む。
- 2層 褐色土(10YR4/6)
しまり、粘性あり。ローム
土主体。黒褐色土を含む。
- 3層 褐色土(10YR5/1)
しまり、粘性あり。黒色
の粒子を含む。ローム土
と黒色土平々である。

第131図 ID14・19・26・28号・ID1・2・7号土坑実測図

(6)ⅡD2号土坑 (第131図、写真図版六十二④)

本址は、調査区中央台地の北斜面であるE-ター20Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は長方形で、長軸方位はN-52°-Wを示す。規模は長軸1.23m・短軸0.90m・深さ71cmを測る。また本址は底面より少し浮いた状態で人頭大の礫が1点検出された。本址よりの出土遺物はなかった。

(7)ⅡD7号土坑 (第131図、写真図版六十二⑤)

本址は、調査区中央部の台地東斜面であるI-スー17Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-41°-Eを示す。規模は長軸1.23m・短軸1.07m・深さ27cmを測る。

また本址覆土中には炭化物が検出された。本址よりの出土遺物は内面黒色処理された土師器坏片2点が出土した。

(8)ⅡD8号土坑 (第132図、写真図版六十二⑥)

本址は、調査区中央の台地の東斜面であるI-シー18・I-スー18Grに位置する。ⅡD7号土坑と南北に並ぶ様に検出された。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-72°-Eを示す。規模は長軸1.31m・短軸1.13m・深さ26cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(9)ⅡD9号土坑 (第132図、写真図版六十二⑦)

本址は、調査区中央台地の東斜面であるI-シー15Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-17°-Eを示す。規模は長軸1.20m・短軸1.03m・深さ26cmを測る。

また本址は中央部より拳大の礫が数点検出された。本址よりの出土遺物はない。

(10)ⅡD10号土坑 (第132図、写真図版六十二⑧)

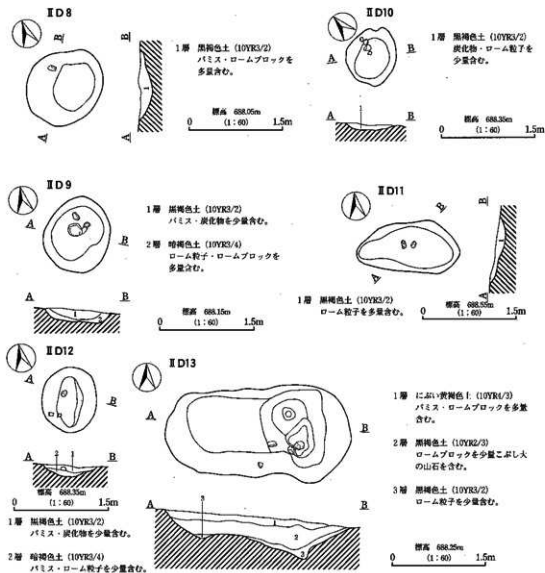
本址は、調査区中央部台地の東斜面であるI-サー16Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-66°-Eを示す。規模は長軸0.93m・短軸0.78m・深さ19cmを測る。

本址よりの出土遺物は図示した須恵器坏の他に内面黒色処理された土師器坏片1点がある。

(11)ⅡD11号土坑 (第132図、写真図版六十三①)

本址は、調査区中央台地の東斜面であるI-サー16Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-85°-Wを示す。規模は長軸1.65m・短軸0.87m・深さ22cmを測る。

本址よりの出土遺物は図示した須恵器甕の他に土師器坏片2点・甕片2点がある。

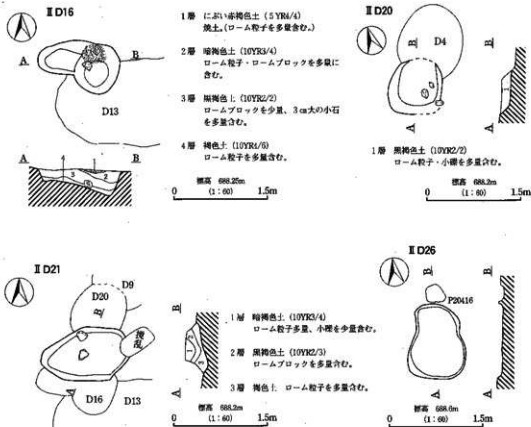


第132図 II D 8・9・10・11・12・13号土坑実測図

(12) II D12号土坑 (第132図、写真図版六十三②)

本址は、調査区中央台地の東斜面であるIーシー-16Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-12°-Eを示す。規模は長軸1.04m・短軸0.86m・深さ23cmを測る。また本址は底面より少し浮いた状態で小礫が少量出土した。

本址よりの出土遺物は須恵器燧片5点が出土したが図示可能なものはなかった。



第133図 II D16・20・21・26号土坑実測図

(3) II D13号土坑 (第132図、写真図版六十三③)

本址は、調査区中央部の台地東斜面であるI-サー-16-I-シー-16Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-90°-Eを示す。規模は長軸2.95m・短軸1.39m・深さ79cmを測る。また本址は東側底面がピット状に一段低くなっていた。

本址よりの出土遺物は土師器坏片3点、土師器甕片2点があったが図示可能なものはなかった。

(4) II D16号土坑 (第133図、写真図版六十三④)

本址は、調査区中央の台地の東斜面であるI-サー-16-I-シー-16Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。II D13号土坑と重複関係にあり、本址の方が古い。形態は不整形で長軸方位はN-78°-Wを示す。規模は長軸1.28m・短軸0.62m・深さ44cmを測る。また本土坑は覆土上面に幅37cmほどの円形に広がる焼土が確認された。本址よりの出土遺物は土師器甕片2点が出土したのみである。

(15) II D20号土坑 (第133図、写真図版六十三⑤)

本址は、調査区中央台地の東斜面であるI-シー-15Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。II D9号土坑と重複関係にあり本址の方が古い。形態は方形で長軸方位はN-15°-Eを示す。規模は長軸残存部で0.87m・短軸0.83m・深さ25cmを測る。本址よりの出土遺物はない。

(16) II D21号土坑 (第133図、写真図版六十三⑥)

本址は、調査区中央部台地の東斜面であるI-サー-16・I-シー-16Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。II D13・16・20号土坑と重複関係にありいずれに対しても本址の方が古い。形態は楕円形で、長軸方位はN-83°-Eを示す。規模は長軸1.40m・短軸0.84m・深さ41cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(17) II D26号土坑 (第133図)

本址は、調査区中央台地のほぼ真ん中であるI-シー-7Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-4°-Eを示す。規模は長軸1.18m・短軸0.81m・深さ13.5cmを測る。本址よりの出土遺物は土師器甕片6点・内面黒色処理された土師器坏片1点が出土したが図示可能な物はなかった。

(18) II D28号土坑 (第134図、写真図版六十三⑦)

本址は、調査区中央台地のほぼ真ん中であるI-スー-6・I-セー-6Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-80°-Eを示す。規模は長軸1.98m・短軸1.55m・深さ28cmを測る。本址よりの出土遺物は図示した須恵器甕の他に土師器坏片1点がある。

(19) II D29号土坑 (第134図、写真図版六十三⑧)

本址は、調査区中央部台地のほぼ真ん中であるI-セー-6Grに位置する。残存状態は北側をII M9号溝状遺構に削平されている他は良好である。形態は方形で、長軸方位はN-79°-Wを示す。規模は長軸1.18m・短軸は残存で0.91m・深さ29cmを測る。本址よりの出土遺物は内面黒色処理された土師器坏片24点、土師器甕片5点がある。

(20) II D31号土坑 (第134図)

本址は、調査区中央台地の東斜面であるI-セー-19Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-29°-Eを示す。規模は長軸1.15m・短軸0.96m・深さ29cmを測る。

本址よりの出土遺物は灰釉皿片1点、須恵器坏片1点が出土したのみである。

(21)ⅡD33号土坑 (第134図)

本址は、調査区中央台地のほぼ真ん中であるI-ター8Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は長方形で、長軸方位はN-87°-Wを示す。規模は長軸1.99m・短軸1.32m・深さ28cmを測る。本址よりの出土遺物は内面黒色処理が施された土師器坏片1点と土師器甕片1点が出土している。

(22)ⅡD42号土坑 (第134図)

本址は、調査区中央部台地のほぼ真ん中であるI-ター12・I-ト-11・12Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は長方形で、長軸方位はN-22°-Eを示す。規模は長軸1.26m・短軸0.75m・深さ25cmを測る。本址よりの出土遺物は図示した土師器鉢の他に微細な土師器片が20点ほど須恵器坏片・甕片がそれぞれ出土している。

(23)ⅡD43号土坑 (第134図)

本址は、調査区中央台地のほぼ真ん中であるJ-イー12Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-89°-Wを示す。規模は長軸1.46m・短軸1.17m・深さ33cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(24)ⅡD44号土坑 (第134図)

本址は、調査区中央台地のほぼ真ん中であるJ-イー12Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-58°-Eを示す。規模は長軸0.95m・短軸0.83m・深さ33cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

(25)ⅡD84号土坑 (第134図、写真図版六十四③)

本址は、調査区中央部台地のほぼ真ん中であるI-コー5Grに位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-83°-Wを示す。規模は長軸1.53m・短軸0.84m・深さ19cmを測る。また本址は底面に拳大の礫が数点検出された。本址よりの出土遺物は須恵器甕片1点が出土している。

(26)ⅡD70号土坑 (第135図、写真図版六十四①)

本址は、調査区中央台地のほぼ真ん中であるE-クー15Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-77°-Eを示す。規模は長軸0.90m・短軸0.70m・深さ28cmを測る。

本址よりの出土遺物はなかった。

II D28

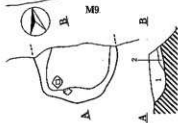


- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)
しまりあり、白色のハミスを多量、
炭化物・焼土粒を含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1)
しまりあり、白色のハミスを少量、
炭化物・焼土粒を少量含む。



標高 688.7m
(1:60) 1.5m

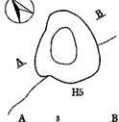
II D29



- 1層 黒色土 (10YR2/1)
しまりあり、φ1cm次の黄色ハミスを含
み、炭化物・焼土粒を含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)
しまりあり、白色のハミスを少量含む。

標高 688.7m
(1:60) 1.5m

II D31

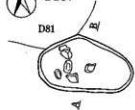


- 1層 暗褐色土 (10YR3/3)
ハミス・小石を多量含む、
ローム粒子を少量含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)
ハミスを少量含む。
- 3層 褐色土 (10YR4/4)
ローム粒子を多量含む。



標高 686.95m
(1:60) 1.5m

II D34



- 1層 黒褐色土 (10YR2/3)
ローム粒子・炭化物を
微量含む。

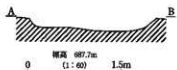
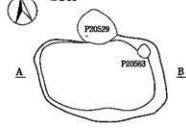
標高 689.62m
(1:60) 1.5m

II D42



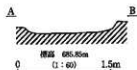
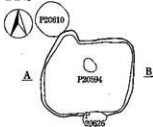
標高 686.15m
(1:60) 1.5m

II D33



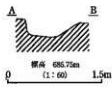
標高 687.7m
(1:60) 1.5m

II D43



標高 685.85m
(1:60) 1.5m

II D44



標高 685.75m
(1:60) 1.5m

第134図 II D28・29・31・33・42・43・44・84号土坑実測図

(27)ⅡD73号土坑（第135図、写真図版六十四②）

本址は、調査区中央の台地からのびる東斜面のほぼ真ん中であるJーシー-13Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は円形で、長軸方位はN-22°-Wを示す。規模は長軸1.39m・短軸1.27m・深さ29cmを測る。また本址は底面に人頭大の礫がまとまって検出された。これら形態より或いは井戸的な使用も考えるべきかもしれない。本址よりの出土遺物は土師器甕片2点のみが出土した。

(28)ⅡD85号土坑（第135図、写真図版六十四④）

本址は、調査区中央部台地のほぼ真ん中であるIーサー-5Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は円形で、長軸方位はN-89°-Eを示す。規模は長軸0.59m・短軸0.49m・深さ30cmを測る。本址よりの出土遺物は図示した遺物の他に土師器坏片が1点出土している。

(29)ⅡD116号土坑（第135図、写真図版六十四⑤）

本址は、調査区中央台地のほぼ真ん中であるIーケー-9Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-72°-Wを示す。規模は長軸0.84m・短軸0.72m・深さ21cmを測る。本址よりの出土遺物は土師器甕片が1点出土している。

(30)ⅡD127号土坑（第135図）

本址は、調査区中央台地のほぼ真ん中であるIーコー-6Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は方形で、長軸方位はN-10°-Wを示す。規模は長軸0.60m・短軸0.56m・深さ22cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

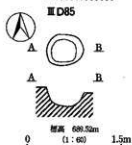
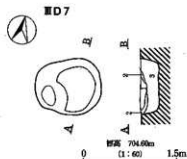
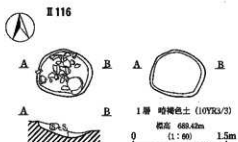
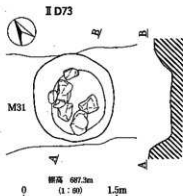
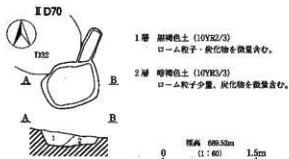
(31)ⅡD121号土坑（第135図、写真図版六十四⑥）

本址は、調査区中央台地のほぼ真ん中であるIーク-8Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-50°-Eを示す。規模は長軸1.6m・短軸1.42m・深さ29cmを測る。本址よりの出土遺物は須恵器甕片・坏片・蓋片が出土している。

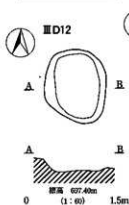
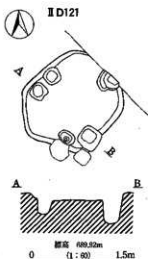
(32)ⅢD7号土坑（第135図）

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中であるLーサー-3Grに位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-77°-Eを示す。規模は長軸1.06m・短軸0.87m・深さ63cmを測る。

本址よりの出土遺物は土師器坏片7点、土師器甕片3点が出土しているが図示可能なものはなかった。



- 1層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまりややあり、炭化物・焼土
含む。
- 2層 明褐色土 (7.5YR5/8)
しまりなし、焼土多量、炭化物
少量含む。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまりややあり、炭化物・焼土
を微量に含む。



第135図 ID70・73・85・116・121・127号・ID7・12・31号土坑実測図

34)ⅢD12号土坑 (第135図、写真図版六十四⑦)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である M-ア-13Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は長方形で、長軸方位は N を示す。規模は長軸1.15m・短軸0.99m・深さ20cmを測る。本址よりの出土遺物は土師器甕片4点が出土している。

34)ⅢD31号土坑 (第135図、写真図版六十五①)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-セ-1Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は長方形で、長軸方位は N-4°-E を示す。規模は長軸1.39m・短軸1.23m・深さ41cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

35)ⅢD10号土坑 (第136図)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である M-オ-5Gr に位置する。ⅢH11号住居址と重複関係にあり本址の方が新しい。残存状態はほぼ良好である。形態は長方形で、長軸方位は N-1°-W を示す。規模は長軸2.20m・短軸1.45m・深さ89cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

36)ⅢD20号土坑 (第136図)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である M-ウ-4・5、M-イー-4・5Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-12°-W を示す。規模は長軸1.37m・短軸1.10m・深さ53cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

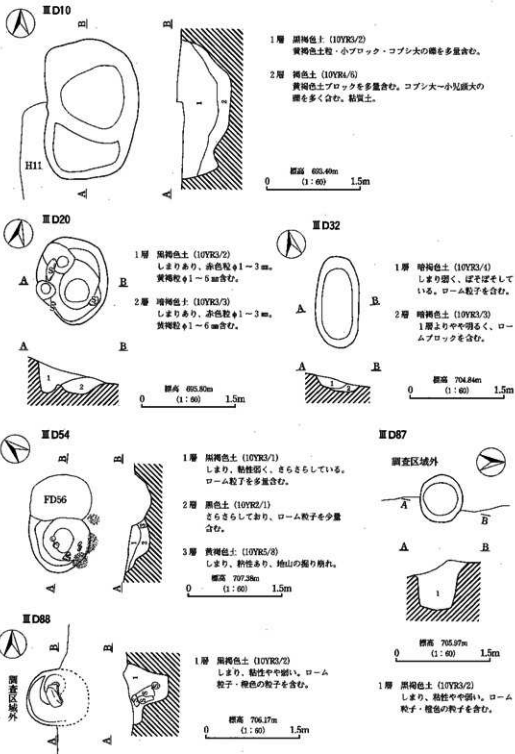
37)ⅢD32号土坑 (第136図、写真図版六十五②)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-ス-1Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-11°-W を示す。規模は長軸1.44m・短軸0.70m・深さ26cmを測る。本址よりの出土遺物はなかった。

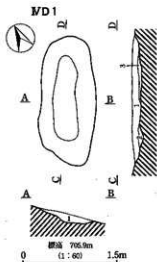
38)ⅢD54号土坑 (第136図、写真図版六十五⑧)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中である L-サー-3Gr に位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-40°-W を示す。規模は長軸0.97m・短軸は残存で0.87m・深さ40cmを測る。また本址は覆土上層に焼土が確認されたがこの焼土は隣に接して存在する中世墳墓群 FD56号に伴うものと考えられる。

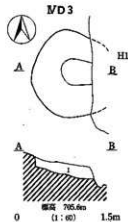
本址よりの出土遺物は図示した土師器坏2点の他に内面黒色処理された土師器坏片8点が出土している。



第136図 ⅢD10・20・32・54・87・88号土坑実測図



- 1層 暗褐色土 (10YR3/3)
しまり、粘性あり。焼土・炭化物を微量含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/2)
しまり、粘性やや弱い。焼土粒子を含む。
- 3層 褐色土 (10YR4/6)
しまり、粘性あり。黒色土粒子を含む。



- 1層 暗褐色土 (10YR3/2)
しまり、粘性あり。ロームブロックを含み、焼土・炭化物を含む。黒色粒子を含む。

第137図 MD1・3号土坑実測図

39) ⅢD88号土坑 (第136図、写真図版六十六⑧)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中であるL-シー7・8Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は円形で、長軸方位はEを示す。規模は長軸が推定で1.00m・短軸0.9m・深さ49cmを測る。また本址は拳大の礫がまとまって検出された。本址よりの出土遺物は土師器坏片3点が出土している。

40) ⅢD87号土坑 (第136図)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中であるL-シー8Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は円形で、長軸方位はEを示す。規模は長軸0.77m・短軸0.67m・深さ35cmを測る。本址よりの出土遺物は土師器坏片5点が出土している。

41) ⅣD1号土坑 (第137図、写真図版六十七①)

本址は、調査区上部台地の南よりであるP-コー1Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は長方形で、長軸方位はN-23°-Eを示す。規模は長軸2.00m・短軸0.88m・深さ29cmを測る。本址よりの出土遺物は土師器片4点が出土している。

42) ⅣD3号土坑 (第137図、写真図版六十七②)

本址は、調査区上部台地の南よりであるL-コー20・L-サー20Grに位置する。残存状態は東側がⅣH1号住居地によって切られている。形態は楕円形で、長軸方位はN-1°-Wを示す。規模は長軸1.4m・短軸が残存で0.96m・深さ38cmを測る。本址よりの出土遺物は土師器甕片1点が出土している。

ここよりは出土遺物等が無く帰属時期不明なものについて扱う。

(43) ID5号土坑 (第138図、写真図版六十一①)

本址は、調査区中央台地の先端であるG-オー8Grに位置する。残存状態は北側半分が地形により削平されている。形態は方形で、長軸方位はN-86°-Eを示す。規模は長軸が1.78m・短軸が残存で0.74m・深さ20cmを測る。

(44) ID8号土坑 (第138図、写真図版六十一②)

本址は、調査区中央部台地の先端であるG-エー13Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-89°-Wを示す。規模は長軸1.16m・短軸0.46m・深さ28cmを測る。

(45) ID13号土坑 (第138図、写真図版六十一③)

本址は、調査区中央部台地の先端南斜面であるK-ア-14Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は長方形で、長軸方位はN-19°-Eを示す。規模は長軸1.06m・短軸0.72m・深さ22cmを測る。

(46) ID21号土坑 (第138図、写真図版六十一④)

本址は、調査区東端の低地であるJ-ツ-20Grに位置する。残存状態は南側が地形によって削平されている。形態は方形で、長軸方位はN-17°-Eを示す。規模は長軸0.86m・短軸0.76m・深さ36cmを測る。

(47) ID22号土坑 (第138図、写真図版六十一⑤)

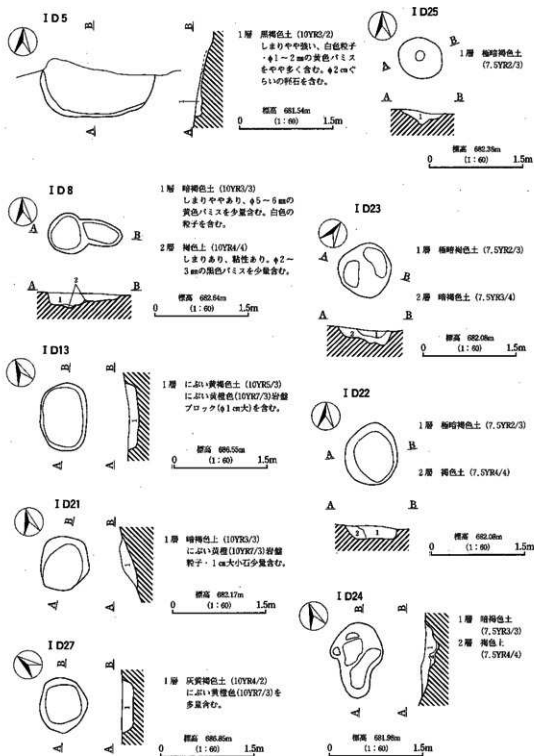
本址は、調査区北側の東斜面であるE-ソ-2Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-6°-Wを示す。規模は長軸が0.98m・短軸0.83m・深さ27cmを測る。

(48) ID23号土坑 (第138図、写真図版六十一⑥)

本址は、調査区北側の東斜面であるE-セ-2・E-ソ-2Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は円形で、長軸方位はN-61°-Wを示す。規模は長軸0.84m・短軸0.83m・深さ33cmを測る。

(49) ID24号土坑 (第138図、写真図版六十二①)

本址は、調査区北側の東斜面であるE-ター3Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-19°-Eを示す。規模は長軸1.18m・短軸0.65m・深さ35cmを測る。



第138図 ID5・8・13・21・22・23・24・25・27号土坑実測図

54Ⅰ D25号土坑 (第138図、写真図版六十二②)

本址は、調査区北側の東斜面である E-ソ-3Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は円形で、長軸方位は N-56°-W を示す。規模は長軸0.73m・短軸0.65m・深さ27cm を測る。

54Ⅰ D27号土坑 (第138図)

本址は、調査区中央台地のほぼ真ん中である J-ト-3Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-52°-E を示す。規模は長軸0.85m・短軸0.75m・深さ21cm を測る。

54Ⅲ D25号土坑 (第139図、写真図版六十四⑥)

本址は、調査区上部台地の北側斜面である H-ソ-11Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-70°-E を示す。規模は長軸1.76m・短軸1.00m・深さ57cm を測る。

54Ⅲ D43号土坑 (第139図、写真図版六十五④)

本址は、調査区最上部台地の北側である H-ソ-20Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は方形で、長軸方位は N-14°-W を示す。規模は長軸0.49m・短軸0.42m・深さ47cm を測る。

54Ⅲ D45号土坑 (第139図、写真図版六十五⑤)

本址は、調査区最上部台地の北側である H-セ-20Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は方形で、長軸方位は N-25°-W を示す。規模は長軸0.87m・短軸0.75m・深さ49cm を測る。

54Ⅲ D49号土坑 (第139図、写真図版六十五⑥)

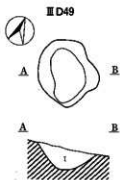
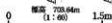
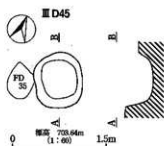
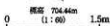
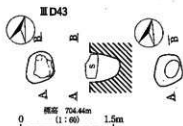
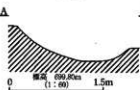
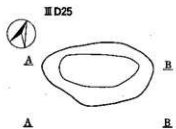
本址は、調査区南端の北斜面である P-ター-14・P-チ-14Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は不整形で、長軸方位は N-25°-W を示す。規模は長軸1.08m・短軸0.96m・深さ43cm を測る。

54Ⅲ D50号土坑 (第139図)

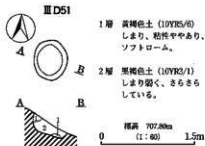
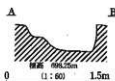
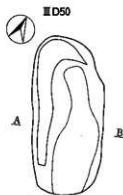
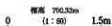
本址は、調査区南端の東斜面である P-チ-4・5Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は長方形で、長軸方位は N-25°-W を示す。規模は長軸2.47m・短軸1.11m・深さ47cm を測る。

54Ⅲ D51号土坑 (第139図、写真図版六十五⑦)

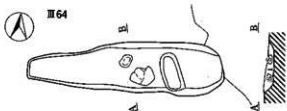
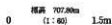
本址は、調査区最上部台地のほぼ真ん中である I-シ-3・L-サー-3Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-6°-W を示す。規模は長軸0.64m・短軸0.53m・深さ61cm を測る。



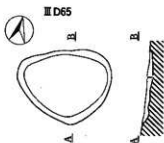
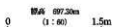
1層 黒褐色土 (10YR2/2)
しまり弱く、軽石・小砂利
を多く含む。



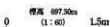
1層 黄褐色土 (10YR5/6)
しまり、粘質ややあり、
ソフトローム。
2層 黒褐色土 (10YR2/1)
しまり弱く、さらさら
している。



1層 黒褐色土 (7.5YR3/2)
しまりあり、粘性强、パミス・小石・石含む。
ローム粒子極少量含む。



1層 灰褐色土 (7.5YR4/2)
しまりあり、粘性强、パミス含む。



第139図 ⅢD25・43・45・49・50・51・64・65号土坑実測図

60Ⅲ D64号土坑 (第139図、写真図版六十六①)

本址は、調査区北西端の東斜面である D-キ-14Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は長方形で、長軸方位は N-86°-E を示す。規模は長軸3.12m・短軸1.10m・深さ33cmを測る。

60Ⅲ D65号土坑 (第139図)

本址は、調査区北西端の東斜面である D-キ-14Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位は N-88°-W を示す。規模は長軸1.47m・短軸1.10m・深さ33cmを測る

60Ⅲ D66号土坑 (第140図、写真図版六十六②)

本址は、調査区北西端の東斜面である D-キ-14・15Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は不整形で、長軸方位は N-5°-E を示す。規模は長軸2.37m・短軸1.47m・深さ92cmを測る。

61Ⅲ D67号土坑 (第140図、写真図版六十六③)

本址は、調査区北西端の東斜面である D-オ-14Gr に位置する。残存状態は西側が調査区外となる。形態は楕円形で、長軸方位は N-15°-W を示す。規模は長軸1.00m・短軸が残存で0.53m・深さ32cmを測る。

62Ⅲ D68号土坑 (第140図、写真図版六十六④)

本址は、調査区北西端の東斜面である D-オ-14・D-カー-14Gr に位置する。残存状態は西側が調査区外となる。形態は楕円形で、長軸方位は E を示す。規模は長軸が残存で1.13m・短軸1.22m・深さ30cmを測る。

63Ⅲ D75号土坑 (第140図、写真図版六十六⑤)

本址は、調査区最上部台地のほぼ真ん中である L-サー-6Gr に位置する。残存状態は東側が調査区外となる。形態は円形で、長軸方位は N-16°-E を示す。規模は長軸0.9m・短軸が残存で0.6m・深さ43cmを測る。

64Ⅲ D81号土坑 (第140図、写真図版六十六⑥)

本址は、調査区北西端の東斜面である D-キ-16Gr に位置する。残存状態は良好である。形態は円形で、長軸方位は N を示す。規模は長軸1.53m・短軸1.52m・深さ33cmを測る。また本址は覆土中に人頭大の礫が多数検出された。

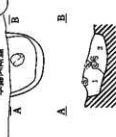
ⅢD66



- 1層 褐色土 (10YR4/4)
粘性強。パミス・小石含む。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/4)
粘性強。パミス少量含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR3/1)
粘性強。パミス・炭化物含む。
- 4層 褐色土 (10YR4/1)
粘性強。小石・石含む。
- 5層 黒褐色土 (10YR3/2)
粘性強。小石含む。
- 6層 褐色土 (10YR4/6)
粘性強。パミス・小石を多量含む。

標高 697.60m
(1:60) 1.5m

ⅢD67



- 1層 暗褐色土 (10YR3/4)
しまりあり、粘性弱。きめ細かい。ローム少量。小石・パミスを含む。
- 2層 褐色土 (7.5YR4/3)
しまりあり。1層よりきめ粗く粘性弱い。パミス・小石含む。

標高 696.20m
(1:60) 1.5m

ⅢD68



- 1層 黒褐色土 (10YR2/3)
しまりなし。炭化物少量含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2)
しまりあり。粘性強。ローム
粒子少量。パミスを含む。

標高 696.20m
(1:60) 1.5m

ⅢD75



- 1層 褐色土 (10YR4/4)
しまり強く、粘性あり。ローム粒子
を多く含む。

- 2層 褐色土 (10YR4/4)
しまり、粘性あり。褐色土ブロック
含む。

標高 707.28m
(1:60) 1.5m

ⅢD81



- 1層 黒褐色土 (10YR2/2)
小石・パミス・ロームブロック少量含む。

標高 698.90m
(1:60) 1.5m

ⅢD86



標高 698.50m
(1:60) 1.5m

第140図 ⅢD66・67・68・75・81・86号土坑実測図

㉔Ⅲ D86号土坑 (第140図)

本址は、調査区北西端の東斜面であるD-カー17Grに位置する。残存状態は西側が調査区外となる。形態は楕円形で、長軸方位はNを示す。規模は長軸0.88m・短軸が残存で0.6m・深さ20cmを測る。

㉕Ⅲ D82号土坑 (第141図、写真図版六十六⑥)

本址は、調査区北西端の東斜面であるD-ク-15Grに位置する。残存状態は良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-9°-Eを示す。規模は長軸1.54m・短軸が1.05m・深さ36cmを測る。

㉖Ⅲ D83号土坑 (第141図、写真図版六十六⑥)

本址は、調査区北西端の東斜面であるD-キ-15Grに位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-26°-Wを示す。規模は長軸1.08m・短軸0.81m・深さ23cmを測る。

㉗Ⅲ D84号土坑 (第141図、写真図版六十六⑦)

本址は、調査区北西端の東斜面であるD-キ-16Grに位置する。残存状態は良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-75°-Wを示す。規模は長軸1.11m・短軸0.84m・深さ18cmを測る。

㉘Ⅲ D85号土坑 (第141図)

本址は、調査区北西端の東斜面であるD-キ-15Grに位置する。残存状態は良好である。形態は方形で、長軸方位はN-15°-Wを示す。規模は長軸0.7m・短軸0.64m・深さ20cmを測る。

㉙Ⅲ D91号土坑 (第141図)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中であるM-ア-14・15Grに位置する。残存状態は良好である。形態は長方形で、長軸方位はN-13°-Eを示す。規模は長軸2.2m・短軸1.14m・深さ39cmを測る。

㉚Ⅲ D92号土坑 (第141図)

本址は、調査区上部台地のほぼ真ん中であるM-ア-14Grに位置する。残存状態は良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-30°-Eを示す。規模は長軸1.07m・短軸0.59m・深さ56cmを測る。

㉛Ⅲ D97号土坑 (第141図)

本址は、調査区北西端の東斜面であるD-カー14・15Grに位置する。残存状態は良好である。形態は長方形で、長軸方位はN-27°-Wを示す。規模は長軸1.75m・短軸1.1m・深さ22cmを測る。

ⅢD82



1層 暗褐色土 (10YR3/4)
小石・パミス少量含む。

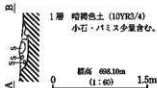


標高 697.70m
(1:60) 1.5m

ⅢD84



1層 暗褐色土 (10YR3/4)
小石・パミス少量含む。



標高 698.10m
(1:60) 1.5m

ⅢD83



1層 暗褐色土 (10YR3/4)
小石多量、パミス少量含む。
2層 黒褐色土 (10YR3/2)
パミス少量含む。



標高 697.90m
(1:60) 1.5m

ⅢD85

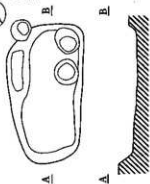


1層 暗褐色土 (10YR3/4)
小石・パミス少量含む。



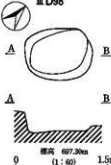
標高 697.80m
(1:60) 1.5m

ⅢD91



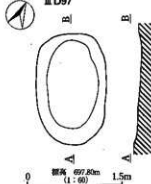
標高 697.80m
(1:60) 1.5m

ⅢD98



標高 697.30m
(1:60) 1.5m

ⅢD97



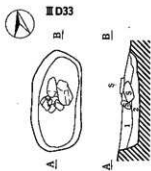
標高 697.80m
(1:60) 1.5m

ⅢD92



標高 697.60m
(1:60) 1.5m

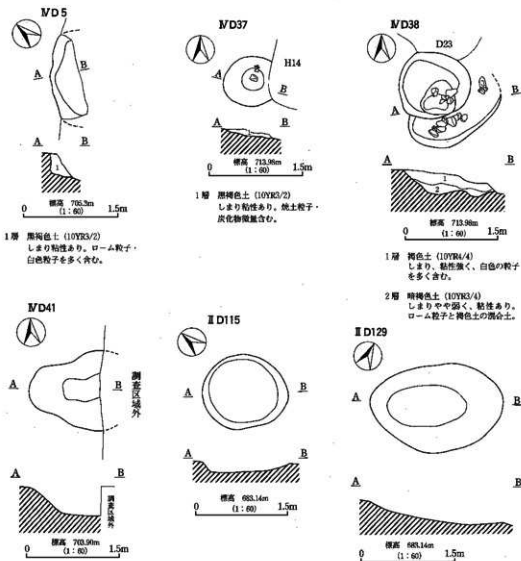
ⅢD33



1層 黄灰色土 (10YR4/1)
しまり細く、ローム粒子
・白色粒子を多く含む。
2層 暗褐色土 (10YR3/1)
しまり細く、やや厚膜が
強い。

標高 704.54m
(1:60) 1.5m

第141図 ⅢD82-83-84-85-91-92-97-98-33号土坑実測図



第142図 IV D5・37・38・41号・II D115・129号土坑実測図

(7) III D98号土坑 (第141図)

本址は、調査区北西端の東斜面であるD-キー-14・D-クー-14Grに位置する。残存状態は良好である。形態は長方形で、長軸方位はN-48°-Eを示す。規模は長軸0.97m・短軸0.82m・深さ40cmを測る。

(74) III D33号土坑 (第141図、写真図版六十五③)

本址は、調査区最上部台地の東斜面であるH-セー-18Grに位置する。残存状態は良好である。

形態は長方形で、長軸方位はN-11°-Eを示す。規模は長軸1.59m・短軸0.77m・深さ35cmを測る。本址からの出土遺物は内面黒色処理された土師器坏片が1点ある。

(76)ⅡD5号土坑 (第142図、写真図版六十七③)

本址は、調査区最上部台地の南よりであるP-サー1Grに位置する。残存状態は東側が地形の傾斜によって削平されている。形態は不整形で、長軸方位はN-39°-Eを示す。規模は長軸が残存で1.34m・短軸が残存で0.48m・深さ49cmを測る。

(76)ⅡD37号土坑 (第142図、写真図版六十七④)

本址は、調査区西端の道路幅部分であるL-ウ-10Grに位置する。残存状態は良好である。形態は円形で、長軸方位はNを示す。規模は長軸0.79m・短軸が残存で0.74m・深さ15cmを測る。本址は弥生の住居地であるⅡH14号住居地と重複するがプラン確認の時新旧の把握ができなかった為この項で概略を記する。

(77)ⅡD38号土坑 (第142図、写真図版六十七⑤)

本址は、調査区西端の道路幅部分であるL-エ-9Grに位置する。残存状態は良好である。形態は不整形で、長軸方位はN-40°-Wを示す。規模は長軸が残存で1.12m・短軸0.92m・深さ51cmを測る。

(78)ⅡD41号土坑 (第142図、写真図版六十七⑥)

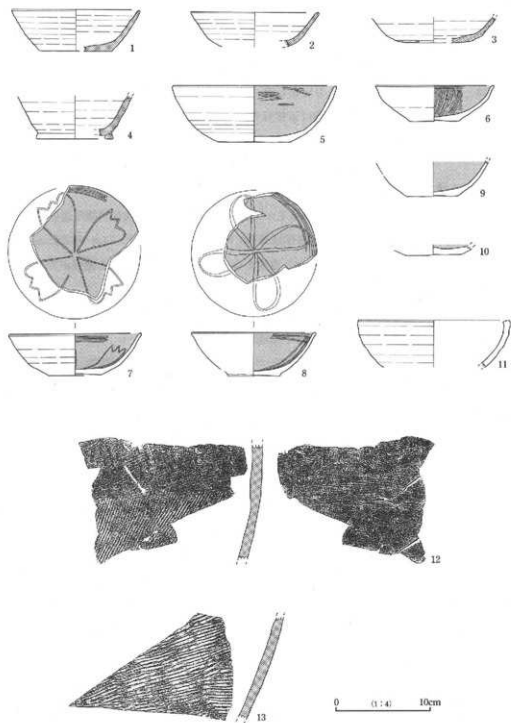
本址は、調査区西端の道路幅部分であるS-テ-1Grに位置する。残存状態は東側が調査区外となる。形態は不整形で、長軸方位はN-89°-Wを示す。規模は長軸が残存で1.12m・短軸0.92m・深さ51cmを測る。

(79)ⅡD115号土坑 (第142図)

本址は、調査区中央台地の北斜面であるF-イ-16Grに位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-41°-Wを示す。規模は長軸1.37m・短軸1.18m・深さ38cmを測る。

(80)ⅡD129号土坑 (第142図)

本址は、調査区中央台地の北斜面であるF-イ-15・16Grに位置する。残存状態は良好である。形態は楕円形で、長軸方位はN-62°-Eを示す。規模は長軸2.1m・短軸1.4m・深さ41cmを測る。



第143图 1~Ⅱ区土坑出土遗物实测图

種別 番号	器種	法量(cm)			成形・調整 外面・内面	色調 胎土
		I径	器高	底径		
II D10 1	須恵器 環	(13.6)	4.4	(7.4)	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り 内面 ロクロ成形	2.5GY7/1 明オリープ灰 黒色の噴出物を多く含む
III D20 2	須恵器 環	(13.5)	(3.7)	---	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形 ※3と同一個体か?	N6/灰 径1~2mmの黒色粒子を多く含む
III D20 3	須恵器 環	---	(2.7)	8.2	外面 ロクロ成形・底部手持ちヘラケズリ 内面 ロクロ成形 ※2と同一個体か?	N6/灰 径1~2mmの黒色粒子を多く含む
IV D1 4	須恵器 長頸壺	---	(4.6)	(8.1)	外面 ロクロ成形・底部切り離した後、高台貼付 内面 ロクロ成形	N4/灰 径1~2mmの白色の砂粒を含む
II D85 5	土師器 環	(17.4)	6.0	7.7	外面 ロクロ成形・底部手持ちヘラケズリ 内面 ヘラミガキ・黒色処理	7.5YR8/3 浅黄橙 径1~2mmの赤色粒子と黒色砂粒多く含む
III D33 6	土師器 環	(12.6)	3.8	5.4	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り 内面 ヘラミガキ・黒色処理	7.5YR7/6 橙 径1~2mmの砂粒を微量含む
III D54 7	土師器 環	(14.1)	4.4	5.6	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り 内面 ヘラミガキ・黒色処理 硝文あり ※僅付着	5YR6/8 橙 径1~2mmの赤色粒子微量と砂粒多量含む
III D54 8	土師器 環	(13.3)	4.6	5.5	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り 内面 ヘラミガキ・黒色処理 硝文あり	7.5YR8/4 浅黄橙 径1~2mmの赤色粒子を微量に含む
III D54 9	土師器 環	---	(3.7)	5.4	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形・黒色処理	7.5YR7/3 におい橙 径2~3mmの赤色粒子を微量に含む
II D28 10	土師器 環	---	(0.9)	6.0	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り 内面 ヘラミガキ・黒色処理	7.5YR3/1 黒褐 径1~2mmの赤色粒子と砂粒を含む
II D42 11	土師器 鉢	(16.2)	(5.0)	---	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	7.5YR7/6 橙 径1~2mmの赤色粒子と大粒の砂粒を含む
II D11 12	須恵器 甕	---	(12.1)	---	外面 平行タタキ後ナデ 内面 同心円状の当て具痕あり	N5/灰(内面) 黒色の噴出物と白色粒子を多く含む
II D28 13	須恵器 甕	---	(8.9)	---	外面 タタキ後ナデ 内面 ナデ	N6/灰 黒色の噴出物と砂粒を多く含む

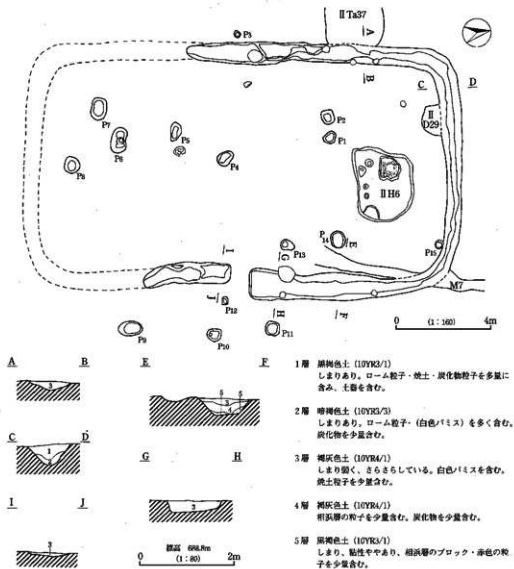
第51表 I~IV区土坑出土遺物観察表

第4節 特殊遺構

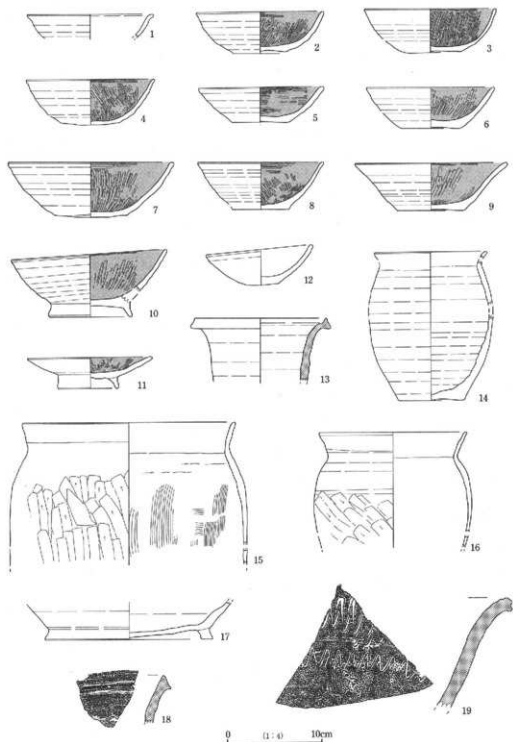
本節では古代(奈良・平安時代)に帰属する特殊遺構について記載する。項目は3つでまず①方形区画溝、②小鍛冶遺構、③土塚墓である。いずれの遺構も台地中央部の南斜面から近接して検出されており、この地域が古代における特殊なエリアであったことが推測できる。

①方形区画溝

(1) II M 9号溝状遺構 (第144・145図、写真図版六十八)



第144図 II M 9号溝状遺構実測図



第145图 II M 9号溝状遺構出土遺物実測図

神田 番号	器種	法 量 (cm)			成 形 ・ 調 整		色 調	
		口径	器高	底径	外 面 ・ 内 面		胎 土	
1	瀬戸 美濃瓦?	(13.4)	(2.5)	—	外面	ロクロ成形・施釉	7.5YR 8/1	灰内(内面)
					内面	ロクロ成形・施釉		良く磨滅されている
2	土師器 環	13.5	4.5	5.6	外面	ロクロ成形・底部回転糸切り	7.5YR 8/3	洗黄橙
					内面	ヘラミガキ・黒色処理		径1~2mmの赤色粒子と砂粒を含む
3	土師器 環	(14.0)	4.7	5.7	外面	ロクロ成形・底部回転糸切り	7.5YR 7/4	にぶい橙
					内面	ヘラミガキ・黒色処理		径1~2mmの赤色粒子を多く含む
4	土師器 環	(13.5)	4.8	6.4	外面	ロクロ成形・底部回転糸切り後、手持ち ヘラケズリ	7.5YR 8/3	洗黄橙
					内面	ヘラミガキ・黒色処理		径1~2mmの赤色粒子を少量含む
5	土師器 環	13.3	3.8	6.2	外面	ロクロ成形・底部回転糸切り	7.5YR 8/3	洗黄橙
					内面	ヘラミガキ・黒色処理		径1~2mmの赤色粒子と砂粒を多く含む
6	土師器 環	(13.5)	4.3	6.3	外面	ロクロ成形・底部回転糸切り	7.5YR 7/4	にぶい橙
					内面	ヘラミガキ・黒色処理		径1~2mmの赤色粒子と砂粒多く含む
7	土師器 環	(17.6)	5.8	(7.6)	外面	ロクロ成形・底部手持ちヘラケズリ	10YR 8/3	洗黄橙
					内面	ヘラミガキ・黒色処理		径1~2mmの赤色粒子を微量に含む
8	土師器 環	(13.4)	5.0	6.0	外面	ロクロ成形・底部回転糸切り	7.5YR 8/4	洗黄橙
					内面	ヘラミガキ・黒色処理		径1~2mmの赤色粒子と砂粒を多く含む
9	土師器 環	(16.2)	5.0	(7.2)	外面	ロクロ成形・底部回転糸切り	10YR 8/3	洗黄橙
					内面	ヘラミガキ・黒色処理 高台欠損?		径1~2mmの赤色粒子を微量に含む
10	土師器 環	16.4	7.1	8.8	外面	ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付	7.5YR 6/2	灰褐
					内面	ヘラミガキ・黒色処理		径1~2mmの赤色粒子を多量に含む
11	土師器 環	13.2	3.3	6.5	外面	ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付	7.5YR 7/3	にぶい橙
					内面	ヘラミガキ・黒色処理		径1~2mmの赤色粒子を多量に含む
12	土師器 環	11.4	4.2	3.6	外面	ロクロ成形・底部回転糸切り	3YR 6/8	橙
					内面	ロクロ成形・底部柱状作りの可能性あり		砂粒を含み、ざらざらしている
13	須恵瓦 瓶	(14.0)	(6.8)	—	外面	ロクロ成形・口縁部自然輪付首	2.5YR 3/1	暗赤灰
					内面	ロクロ成形		白色粒子を多く含む
14	土師器 甕	(12.0)	15.6	(7.0)	外面	ロクロ成形・底部回転糸切り 口縁部ロ クロによるナデ	7.5YR 7/3	にぶい橙
					内面	ロクロ成形・口縁部ロクロによるナデ		径1~2mmの赤色粒子を多量に含む
15	土師器 甕	(22.6)	(15.1)	—	外面	口縁部ヨコナデ・胴部ナデ後、ヘラケズリ	7.5YR 7/6	橙
					内面	口縁部ヨコナデ・胴部ナデ後、ハケメの残 るナデ		径1~2mmの赤色粒子を微量に含む
16	土師器 甕	(15.6)	(12.2)	—	外面	ロクロ成形・口縁部ロクロによるナデ・ 胴部平ヘラケズリ	7.5YR 6/4	にぶい橙
					内面	口縁部ロクロによるナデ・胴部ナデ		径2~3mmの赤色粒子を多量に含む
17	灰 輪 瓦	—	(4.0)	(17.9)	外面	ロクロ成形	2.5GY 明オリブ灰	
					内面	ロクロ成形・底部輪付首		黒色粒子を微量含む
18	須恵器 甕	—	(5.1)	—	外面	ロクロ成形	N 4/灰	
					内面	ロクロ成形		白色の砂粒を多く含む
19	須恵器 甕	—	(11.5)	—	外面	ロクロ成形・口縁部波状文	N 4/灰	
					内面	ロクロ成形・口縁部自然輪付首		砂粒を多く含む

第52表 II M 9号溝状遺構出土遺物観察表

本址は、調査区中央台地の南斜面であるI-シー-8、I-ス-6・7・8・9・10、I-セ-6・7・8・9・10、I-ソ-6・7・8・9・10、I-ター-8Grに位置する。残存状態は南側が自然地形の傾斜によるものか溝がとぎれている。形態は南北方向に長辺をもつ区画溝であり、東辺の中央部に地山を掘り残してある土橋状の部分がある。長軸方位はN-8°-Wを示す。規模は北辺9.8m・西辺が残存で10.6m・東辺が残存で12.3mを測る。また溝の幅と深さは西辺中央で幅90cm・深さ9cm、北西コーナーで幅94cm・深さ46cm、北辺中央で幅68cm・深さ44cm、北東コーナーで幅70cm・深さ31cm、東辺中央で幅

92cm・深さ28cmである。溝の断面形態は北辺は「V」字形、西と東辺は逆台形状であった。溝に囲まれた内側部分の面積は残存で102.6㎡、推定で149㎡を測る。また内側部分にはピットが15カ所ほど検出された。ピットの規模はP1が径52cm・深さ29cm、P2が径60cm・深さ25cm、P3が径23cm・深さ26cm、P4が径79cm・深さ22cm、P5が径75cm・深さ18cm、P6が径104cm・深さ63cm、P7が径92cm・深さ19cm、P8が径70cm・深さ18cm、P9が径100cm・深さ15cm、P10が径60cm・深さ23cm、P11が径60cm・深さ33cm、P12が径32cm・深さ19cm、P13が径57cm・深さ11cm、P14が径72cm・深さ41cm、P15が径32cm・深さ47cmを測る。ピットの形態は円形か楕円を基調としている。

本址からの遺物は主に北辺の溝より多量に出土した。ただ出土の状態はいずれも覆土中のものであったが、図示した12の土師器環は東辺の南よりの位置で溝底面から正位で出土した。1は中世の混入品であり、瀬戸・美濃Ⅲであり口縁部が破片で出土した。2～9は土師器環でいずれも内面黒色処理されている。9のみやや形態が異なる。10は土師器碗、11は土師器高台皿、12は土師器環である。13は須恵器の長頸壺の口縁部と思われる。14～16は土師器甕でありいずれもロクロ成形である。17は灰釉陶器瓶の底部破片であり、底みこみ部には顕著な軸が確認された。18と19は須恵器甕の口縁部破片である。これらの遺物より本址は9世紀後半に位置づけられる。

以上ⅡM9号溝状遺構について概略を記したが、本址の性格としては溝に囲まれた内部に規則性を確定できないが大型のピット及び扁平な礫が散在し、尚かつ竪穴住居の項で述べたが、形態が至んで焼土塊も検出されたⅡH6号住居址(時期はやや異なる)が存在することから、溝に囲まれた大型の建物址が内部にあったことが推定される。

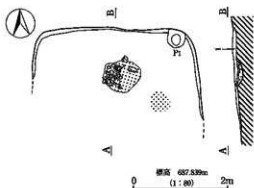
②小鍛冶遺構

(1)ⅡH18号住居址(第146～148図、写真図版七十、七十一)

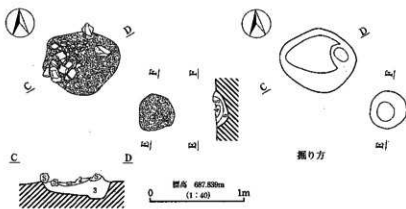
本住居址は、調査区中央台地の南斜面であるI-チ-8、I-ツ-8・9Grに位置する。残存状態は南側が地形の傾斜によって削平されている。

形態はほぼ方形を呈すると考えられる。規模は北壁3.12m・西壁0.92m(残存)・東壁1.87m(残存)で、壁高さは北東コーナーよりで8.5cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる。主軸方位はNを示す。住居址の床面積は検出部で6.4㎡を測る。覆土は単層で、焼土・炭化物を非常に多く含む。床は全体に軟質であった。壁溝は確認されなかった。ピットは北東コーナーに1カ所確認できた。規模は径38cm・深さ27cmを測る。鍛冶炉はほぼ中央に2カ所検出された。まず中央の土坑は規模が長軸81cm・短軸67cm・深さ17cmで羽口・土器・鉄滓等が出土した。その脇のやや小振りな土坑は規模が長軸39cm・短軸38cm・深さ13cmであり、土坑底面はよく焼けておりその上部には鉄屑的な層がガリガリしていた。こちらの土坑からは遺物は出土していない。このことから中央の土坑は廃棄土坑で小型の土坑が鍛錬・鍛冶炉と考えられる。

出土遺物は先にも述べたように羽口・土師器・鉄滓がある。いずれも中央の土坑より出土した。土器類は図示した土師器環以外に土師器壺片・須恵器蓋片がある。11の土師器環は口径11.8cm・器高3.8cm・底径4.8cmを測る。成形はロクロで底部回転糸切り離しである。1～10は羽口である。1～4はほぼ完形品である。大きさはいずれも径9cm内外・長さ10cm程である。重さは1が938g、3が833g、4が706gである。形態はいずれも砲弾形で先端部に鉄分の付着がある。胎土は赤色粒子を含み、繊維質を混入している。また炉に設置された角度を示す焼成痕は顕著な3で約70°を示すがいずれの羽口も部分により角度が異なり繰り返しの利用が考えられる。4は底面に刃物傷の様な痕跡があり、10は1点のみ規模がやや小型である。12～19は鉄滓であり、大型の物のみ図示した。重さは12が67g、13が184g、14が56g、15が69gである。遺構全体からは719gが出土している。

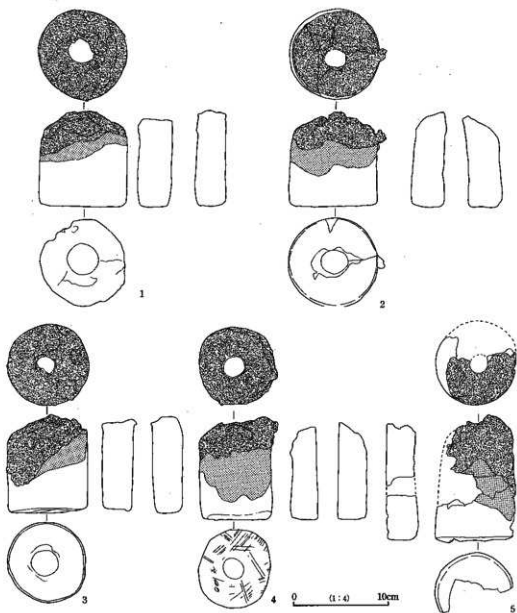


1層 黒褐色土 (10YR3/2)
しまりやや弱く、[白色の粒子を含み、焼土
粒子・炭化物粒子を多量含む。



- 2層 黒褐色土 (10YR2/2) しまりあり、焼土粒子含み、鉄のとけたような土を含む。
 3層 暗褐色土 (10YR3/3) しまりややあり、焼土粒子を少量、炭化物を含む。
 4層 暗褐色土 (10YR3/3) しまり弱く、焼土粒子・炭化物粒子を含む。
 5層 暗青灰色土 (10B6) しまりあり、鉄くずの層でガリガリしている。単純層。
 6層 暗褐色土 (10YR3/4) しまりあり、上面よく焼けている。下層は地山。

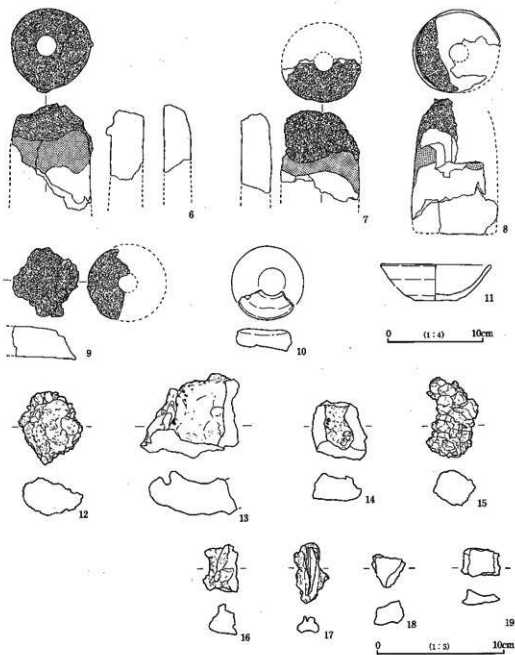
第146図 Ⅱ H18号住居址実測図



第147図 II H18号住居址出土遺物実測図①

標本 番号	器種	法 量(cm)			成形・調整	色 調
		口径	器高	底径		
11	土師器 杯	(11.8)	3.8	4.8	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り 内面 ロクロ成形	7.5YR7/4 に近い橙 径1-2mmの赤色粒子多量と黒色粒子 少量含む

第53表 II H18号住居址出土遺物観察表



第148图 II H18号住居址出土遺物実測図②

③土墳墓

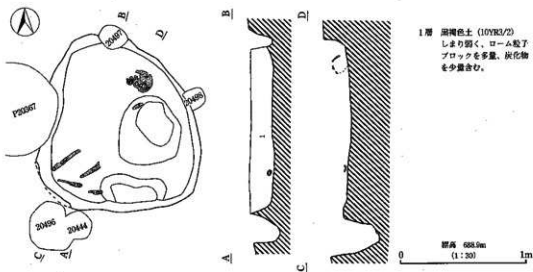
(1)ⅡD24号土坑（第149図、写真図版六十九）

本址は、調査区中央台地のほぼ真ん中であるIーセー5Grに位置する。残存状態はほぼ良好である。形態は不整形で、長軸方位はNを示す。規模は長軸1.37m・短軸1.24m・深さ25cmを測る。底面の2カ所に一段深く掘り下がった部分が発出された。

被葬者は土坑底面に接するように検出された。人骨の残存状況は頭部と足がそれぞれ残存するのみであった。頭部方位はN-36°-Eを測り、屈葬状態であった。

本址よりの出土遺物は土師器環片が13点、土師器甕片が6点あったが図示可能なものはなかった。よって本址の帰属時期は不明な部分もあるが、本址覆土が堆積きまってから中世のピット及び土坑が掘られていることなどから奈良・平安時代の遺構として取り扱った。

なお、被葬者は性別不詳であるが熟年期成人であることが判明している。詳細は第Ⅳ分冊付編「榛名平遺跡出土人骨」を参照されたい。



第149図 ⅡD24号土坑平面図

第5節 溝状遺構

(1) IM5号溝状遺構 (第150図、写真図版七十二①)

本址は、調査区北よりの低地部分であるB-イー12、B-ウー12・13、B-エー13、B-オー13、B-カー13・14、B-キー14・15、B-クー14・15、B-ケー15Grに位置する。残存状態は東側が谷部低地の溝により寸断されている。また西側は自然にとぎれている。

走行方向は東西方向であり、走行方位はN-68°-Wを示す。規模は検出範囲で約35.4mを測る。溝の規模は西端で幅80cm・深さ29cm、中央で幅145cm・深さ38cm、東端で幅62cm・深さ12cmをそれぞれ測る。溝の断面形はU字形を呈する。底面はほぼ平坦であった。

本址よりの出土遺物は土師器片1点と須恵器甕片5点が出土したのみであった。

(2) IM11号溝状遺構 (第150図、写真図版七十三①)

本址は、調査区北よりの低地部分であるB-シー8・9、B-スー8・9、B-セー8、B-ソー8、B-ター8、B-チー8・9、B-ツー8・9Grに位置する。残存状態は東側が調査区外となり、西側は自然にとぎれている。

走行方向は東西方向であり、走行方位はWを示す。規模は検出範囲で約25.2mを測る。溝の規模は西端で幅62cm・深さ11cm、中央で幅160cm・深さ54cm、東端で幅112cm・深さ67cmをそれぞれ測る。溝の断面形はU字形を呈する。底面は部分的に凹凸があり、ピット状になっている箇所もあった。また礫や一部流水を示す砂層が検出されている。

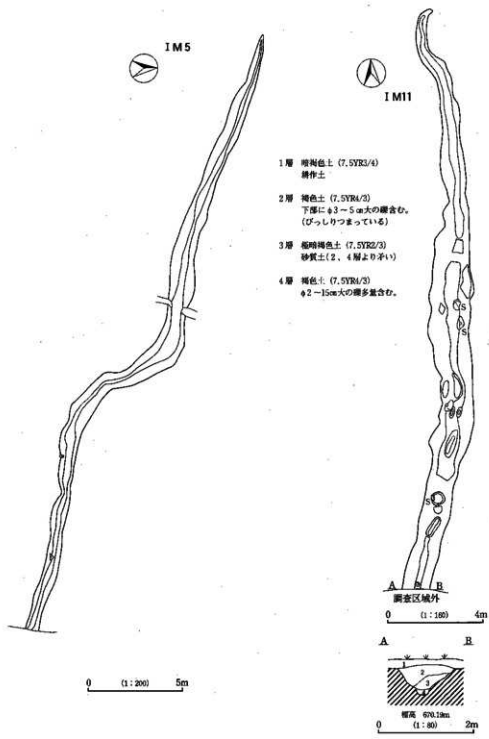
本址よりの出土遺物は土師器甕片1点・坏片1点、須恵器甕片3点が出土したのみであった。

(4) IM4号溝状遺構 (第151図、写真図版七十二②)

本址は、調査区北よりの低地部分であるB-アー8・9、B-イー8・9、B-ウー9、B-エー9、B-オー9Grに位置する。残存状態は良好であるが東西が自然にとぎれている。またIM5号溝とはほぼ平行関係の位置に検出されている。

走行方向は東西方向であり、走行方位はN-80°-Wを示す。規模は検出範囲で約16.8mを測る。溝の規模は西端で幅88cm・深さ15cm、中央で幅85cm・深さ40cm、東端で幅56cm・深さ10cmをそれぞれ測る。溝の断面形はU字形を呈する。底面はほぼ平坦であったが、一部にピットや拳大の礫が確認された。

本址よりの出土遺物は須恵器環・甕、土師器小片が出土したのみであり図示可能な遺物は無かった。なお、本址は走行方向からIM11号溝状遺構と同一の溝の可能性がある。



第150図 IM5・11号溝状遺構実測図

(4) IM12号溝状遺構 (第151図、写真図版七十三②)

本址は、調査区北よりの低地部分であるB-ター13・14Grに位置する。残存状態は南側がとぎれた状態である。なお、本址の形態は溝として扱うには苦慮する形態であるが、集水的な機能も考えられることから溝状遺構として扱う。

走行方向は南北方向であり、走行方位は $N-20^{\circ}-E$ を示す。規模は検出範囲で約3.8mを測る。溝の規模は北端で幅94cm・深さ47cm、中央で幅46cm・深さ18cm、南端で幅38cm・深さ8cmをそれぞれ測る。溝の断面形はU字形を呈する。北端には土坑状の掘り込みがあり、規模は幅42cm・深さ10cmを測る。また、溝部分から全体に拳大より大きな礫が詰まったような状態で検出されている。本址よりの出土遺物は無かった。

(5) VM1号溝状遺構 (第151図、写真図版七十四②)

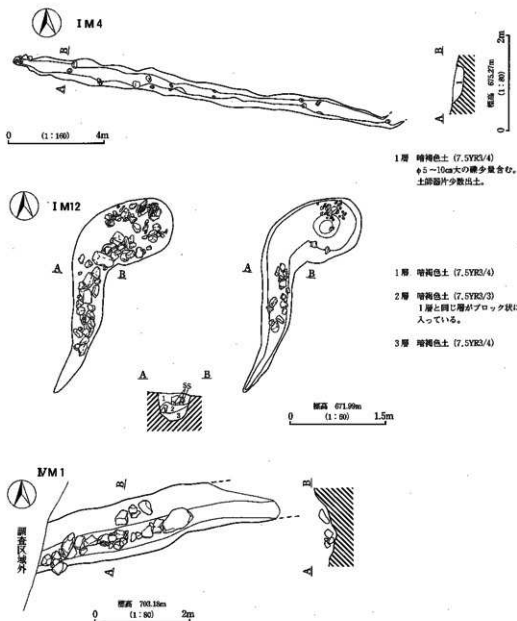
本址は、調査区上段の台地の南よりであるP-サー4、P-シー4Grに位置する。残存状態は西側が調査区外、東側が自然の地形により削平されている。

走行方向は東西方向であり、走行方位は $N-77^{\circ}-E$ を示す。規模は検出範囲で約5.2mを測る。溝の規模は西端で幅110cm・深さ6cm、中央で幅100cm・深さ33cm、南端で幅61cm・深さ39cmをそれぞれ測る。溝の断面形はU字形を呈する。溝の中からは全体に大型の礫が流れ込んだような状態で検出されている。

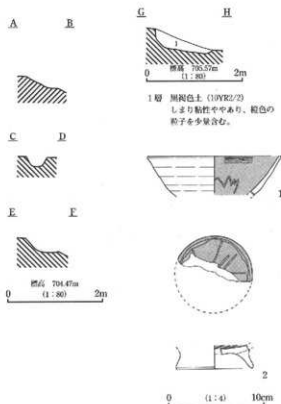
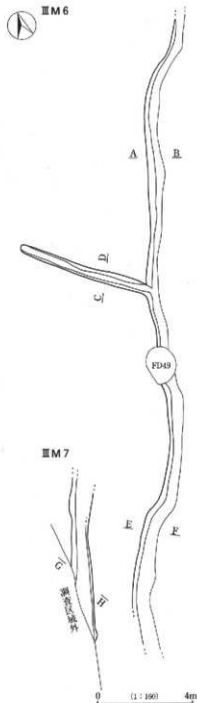
本址よりの出土遺物は無かった。



Ⅱ区溝状遺構調査風景



第151図 IM4・12号、IM1号溝状遺構実測図



第152図 III M6・7号溝状遺構実測図

(6) III M6号溝状遺構 (第152図)

本址は、調査区最上部台地のほぼ中央である
Lースー89・10、Lーセー4~8、Lーソー3・4Grに
位置する。残存状態は南北がとぎれた状態である。

形態は「ト」の字状に途中分岐する。走行方
向は南北方向であり、走行方位はN-14°-
Eを示す。規模は検出範囲で南北約27.2mを
測る。溝の規模は北端で幅46cm・深さ14cm、
中央で幅46cm・深さ12cm、南端で幅80cm・深さ
29cmをそれぞれ測る。溝の断面形はU字形
を呈する。

本址よりの出土遺物は図示した物の他に須
恵器坏1点がある。

標記 番号	器種	法 量(cm)			成 形・調 整	色 調
		口径	器高	底径		
1	土師器 環	(14.2)	<4.3>	---	外面 ロクロ成形 内面 ヘラミガキ・黒色処理 附文あり	7.5YR7/8 黄橙
						径1~2mmの赤色粒子を多く含む
2	土師器 碗	---	<2.5>	(8.2)	外面 底部回転糸切り?後、高台趾付 内面 ヘラミガキ・黒色処理 附文あり	7.5YR7/6 橙
						径1~2mmの赤色粒子と砂粒を含む

第54表 III M 6号溝状遺構出土遺物観察表

(7) III M 7号溝状遺構 (第152図)

本址は、調査区最上部の台地南よりであるL-シー-8・9Grに位置する。残存状態は南側が調査区外で北側はとぎれた状態である。

走行方向は南北方向であり、走行方位はN-14°-Eを示す。規模は検出範囲で約6.9mを測る。溝の規模は中央で幅70cm・深さ29cmを測る。溝の断面形は逆台形を呈する。

本址よりの出土遺物は灰釉陶器皿片が1点出土したのみであった。

(8) III M13号溝状遺構 (第153図)

本址は、調査区中央部台地の東斜面であるI-チ-17・18Grに位置する。残存状態は南北がとぎれた状態である。走行方向は南北方向であり、走行方位はN-15°-Eを示す。規模は検出範囲で約5.9mを測る。溝の規模は北端で幅40cm・深さ8cm、中央で幅43cm・深さ5cm、南端で幅35cm・深さ7cmをそれぞれ測る。溝の断面形はU字形を呈する。

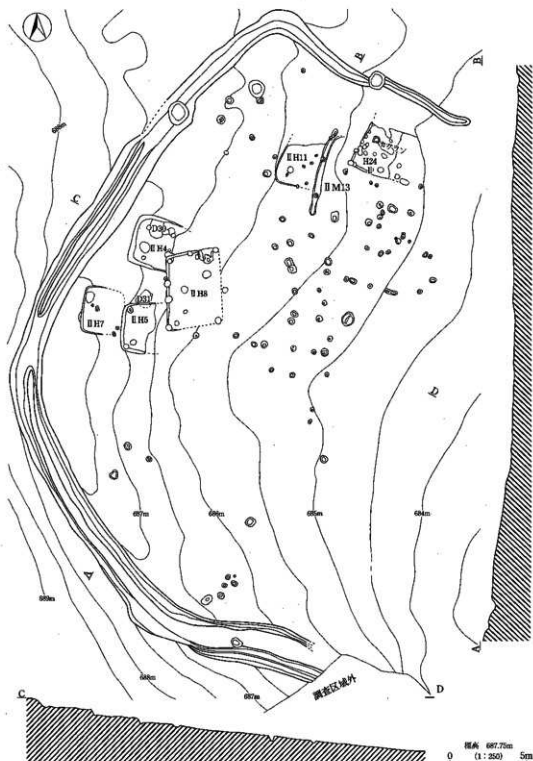
本址よりの出土遺物は土師器ロクロ甕片が1点出土しているのみである。

(9) III M45号溝状遺構 (第153図)

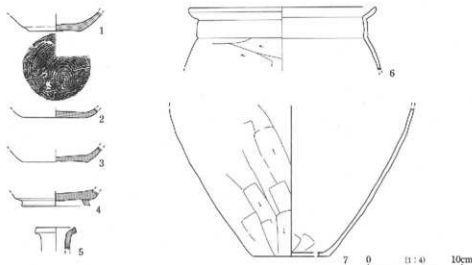
本址は、調査区中央の東斜面であるI-シー-15~20、M-ター-1~5Grの範囲に位置する。残存状態は南側が調査区外となる。

走行方向は南北方向に長く「コ」の字を描くように検出されている。規模は検出範囲で約75.5mを測る。溝の規模は幅が235~70cmで深さが46~6cmを測る。溝の断面形はU字形を呈するが、一部2本に分かれたような状態の部分は「W」の字状になっている。本址は東傾斜地を溝によって削平区画し、テラス面を造るための溝と考えられ、溝に区画された平坦面にある竪穴住居及び柵列的ピットと有機的な関連が推測しうる。

本址よりの出土遺物は土師器環片4点が出土したのみであり、中世以降の関連と考えられる土鍋等の遺物の出土はなかった。



第153图 II M13-45号溝状遺構実測図



第154図 II M31号溝状遺構出土遺物実測図

検出 番号	器種	法 量 (cm)			成 形 ・ 調 整		色 調	
		口径	器高	底径	外 面 ・ 内 面		胎 土	
1	須恵器 坏	---	<1.3>	(7.0)	外面	ロクロ成形、底部回転糸切り	底面にヘラ記号)	N6/灰
					内面	ロクロ成形		黒色の噴出物を微量含む
2	須恵器 坏	---	<1.0>	(7.0)	外面	ロクロ成形、底部回転糸切り		N7/灰
					内面	ロクロ成形		黒色の砂粒を多く含む
3	須恵器 坏	---	<1.3>	5.7	外面	ロクロ成形、底部回転糸切り		N4/灰
					内面	ロクロ成形		白色の砂粒を多く含む
4	須恵器 高台坏	---	<1.4>	(7.2)	外面	ロクロ成形、底部回転ヘリ切り後、高台 貼付		N5/灰
					内面	ロクロ成形		黒色の噴出物と白色の砂粒を多く含む
5	須恵器 長細書	(4.0)	<2.5>	---	外面	ロクロ成形		N5/灰
					内面	ロクロ成形		白色の砂粒を含む
6	土師器 甕	(20.0)	<6.7>	---	外面	口縁部一底部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ		5 YR 6/8 Ⅱ Ⅱ
					内面	口縁部一底部ヨコナデ、胴部ナデ ※7と同一個体		径1-2mmの赤色粒子と砂粒を含む
7	土師器 甕	---	<15.7>	(7.8)	外面	胴部ヘラケズリ、胴部厚付着		5 YR 6/8 Ⅱ
					内面	胴部ナデ、胴部下位ヘラナデ ※6と同一個体		径1-2mmの赤色粒子と砂粒を含む

第55表 II M31号溝状遺構出土遺物観察表

(10) II M31号溝状遺構 (第154図、写真図版七十四①)

本址は、調査区中央の東斜面であるI-シー13からI-チー14Grに位置する。残存状態は東側が自然にとぎれている。走行方向は東西方向であり、地形に沿って低地部に向かって延びていることから自然の流路とも考えられるが、当該期の遺物がやや多く出土したので本節で記載した。なお、溝内よりII D73号土坑が検出されており、本址と考えあわせると集水遺構の性格も考えられる。

本址よりの遺物は図示した物の他に土師器坏片6点がある。

第6節 ピット

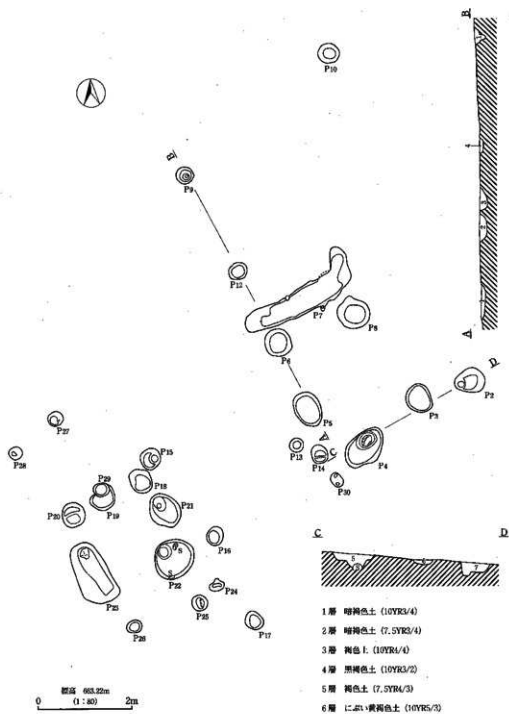
本節では奈良・平安時代に属すると考えられるピットについて述べる。帰属時期の認定については調査時に判断されたものを中心に、当該期の遺物を出土したのもも記載対象とした。それによると実測図を示した調査区最北のZ区及び図示した主な遺物が出土した調査区中央台地のほぼ真ん中であるⅡM9号溝状遺構周辺よりまとまって検出されている。

(1) Z区ピット群 (第155図)

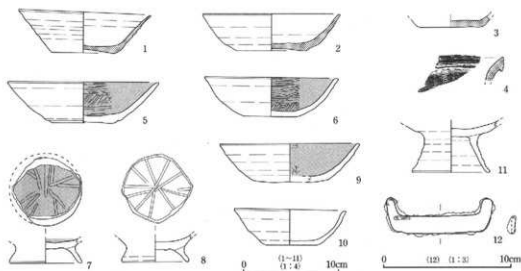
本址は、調査区最北のZ区に所在する。28個のピットからなるピット群で、検出位置よりIF6号掘立柱建物址との関連が考えられる。一部柵列的な箇所も見られるが規則性に乏しい。

各ピットの規模はP2が径64cm・深さ29cm、P3が径62cm・深さ9cm、P5が径77cm・深さ13cm、P4が径100cm・深さ34cm、P6が径58cm・深さ20cm、P7が径250cm・深さ39cm、P8が径68cm・深さ60cm、P9が径36cm・深さ27cm、P10が径45cm・深さ12cm、P12が径40cm・深さ10cm、P13が径30cm・深さ35cm、P14が径39cm・深さ21cm、P15が径46cm・深さ24cm、P16が径38cm・深さ24cm、P17が径42cm・深さ12cm、P18が径54cm・深さ19cm、P19が径52cm・深さ22cm、P20が径52cm・深さ32cm、P21が径76cm・深さ23cm、P22が径90cm・深さ30cm、P23が径140cm・深さ35cm、P24が径30cm・深さ14cm、P25が径37cm・深さ32cm、P26が径32cm・深さ11cm、P27が径32cm・深さ15cm、P28が径27cm・深さ23cm、P29が径36cm・深さ26cm、P30が径32cm・深さ19cmを測る。形態はいずれも円形を基調とし、P4内からは根石的な礫が検出されている。これらピットよりの出土遺物はなかった。

ピット出土の遺物として11点の須恵器・土師器と12の鉄製品(おびき具)を図示した。図示した遺物の出土位置は1がI P123(Jーチー5)、2がⅡP20629(Iースー9)、3がⅡP20456(Iースー8)、4がⅡP20436(Iーシー8)、5がⅡP20121(Iーセー4)、6がⅡP20586(Iーター8)、7がⅡP20586(Iーター8)、8がⅡP20551(Iーソー8)、9がⅡP27(Iーキー1)、10がⅡP20526(Iーソー7)、11がⅡP20551(Iーソー8)、12がⅡP20556(Iーター8)である。1～3は須恵器環でいずれも底部回転糸切り難しを施す。特に1はロクロ回転による水引きが強く、体部に回転痕が顕著に残り、器形のゆがみも激しい。5・6・9・10は土師器環であり、5と6は内面に丁寧なミガキが施されている。7と8は高台付きの椀であり、内面には放射状の暗文がある。11は高台盤の脚部か或いは比較的高い高台の付いた大型の椀と考えられるが詳細は不明である。



第155図 Z区ピット群実測図



第156図 ビット出土遺物実測図

検出 番号	器種	法 量(cm)			成 形・調 整		色 調	
		口径	器高	底径	外面	内面	粉	土
IP 123 1	須恵器 杯	14.0	4.2	6.6	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り	内面 ロクロ成形 非常に著しい	N7/灰白	白色の砂粒を多く含む
IP 20629 2	須恵器 杯	(14.6)	3.9	(7.3)	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り	内面 ロクロ成形 ※内外面 火だすき痕あり	2.5GY7/1 明オリープ灰	黒色の噴出物あり
IP 20456 3	須恵器 杯	—	(1.3)	(6.5)	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り	内面 ロクロ成形	N7/灰白	径1～2mmの白色粒子を多く含む
IP 20456 4	須恵器 壺	—	(2.6)	—	外面 ロクロ成形・波状文あり	内面 ロクロ成形	N4/灰	径1～2mmの白色粒子を多く含む
IP 20121 5	土師器 杯	(16.0)	4.3	7.0	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り	内面 ヘラミガキ・黒色処理	7.5YR7/3 に近い橙	径1～2mmの赤色粒子を少量含む
IP 20596 6	土師器 杯	(14.2)	4.2	(5.7)	外面 ロクロ成形・底部回転ヘラ切り	内面 ヘラミガキ・黒色処理	7.5YR7/3 に近い橙	径1～2mmの赤色粒子多量と白色粒子 含む
IP 20596 7	土師器 碗	—	(2.6)	(7.7)	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り後 高台貼付	内面 坯部ヘラミガキ・黒色処理 硝文あり 胴部ロクロ成形 ※爆付著	7.5YR7/3 に近い橙	径1～2mmの赤色粒子多量と白色粒子 含む
IP 20551 8	土師器 杯	—	(2.9)	7.2	外面 ロクロ成形・底部切り離した後、高台貼付	内面 底部調整不明 ロクロ成形・坯部硝文あり	7.5YR5/6 橙	径1～2mmの赤色粒子と砂粒を多く含む
IP27 9	土師器 杯	(14.8)	4.1	(8.0)	外面 ロクロ成形	内面 ロクロ成形・黒色処理	7.5YR7/4 に近い橙	黒色の砂粒を含む
IP 20526 10	土師器 杯	11.9	3.8	5.4	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り	内面 ロクロ成形 ※硝文残っている	7.5YR7/3 に近い橙	径1～2mmの赤色粒子を多量に含む
IP 20551 11	土師器 高台型 ?	—	(5.6)	(8.2)	外面 ロクロ成形・底部切り離した後、高台貼付	内面 底部調整不明 ロクロ成形	7.5YR7/5 橙	径1～2mmの赤色粒子を微量に含む

第156表 ビット出土遺物観察表図

第7節 遺構外出土遺物

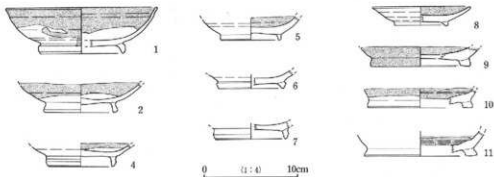
本節では奈良・平安時代に属すると考えられる遺構外出土の遺物について述べる。遺物は灰釉陶器・須恵器・土師器・石製品について記載した。なお、石製品の磨石・敲石・砥石、鉄製品の釘等は当該期の遺構より出土した物については覆土中の物に關しても各遺構の項で掲載したが、遺構外の遺物については時期判断が難しく、石製品については縄文時代の遺構外遺物の項で、また鉄については中世の遺構外出土鉄製品の項で掲載することとした。当期に属する遺構外遺物の出土位置はおもに南側のJ区埋没谷泥炭層からの出土が多く、調査区中央の台地斜面に展開する集落址からの廃棄等が推測できた。

灰釉陶器は10点を図示した。いずれも完形品はなく1と8が1/2ほど残存するのみである。軸は1が漬け掛けの他はハケ塗りと考えられる。また、1・5・6は内面みこみ部が研磨されたようによく磨かれていた。産地は1が美濃窯光ヶ丘1号窯、8が黒笹14号窯に比定できるが、詳細は第三章、第1節の「椋名平遺跡出土の灰釉陶器について」を参照されたい。

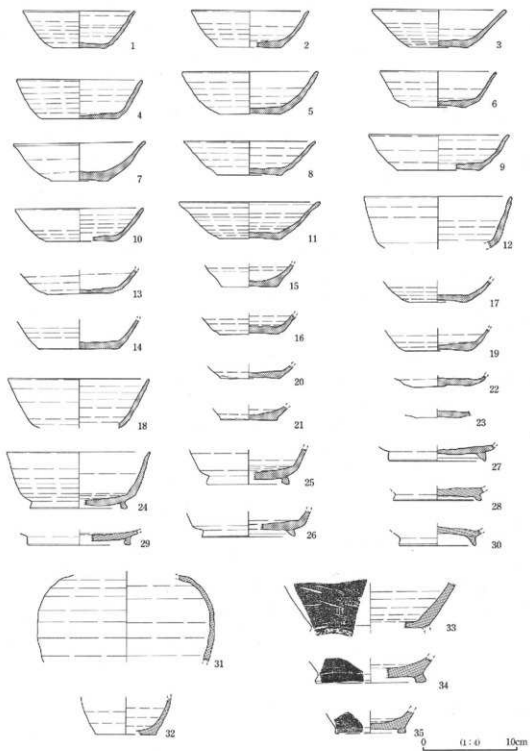
須恵器は102点を図示した。器種は蓋・坏・甕・壺であり特殊な製品は無かったが、100の須恵器蓋に「大井」の刻書があった。この刻書は焼成後に書かれたものであった。また、この須恵器蓋のつまみは特異な宝珠形を呈する。天井部の自然釉の状態や胎土からみて在地産須恵器とは考えにくく、他地域からの搬入品の可能性がある。

土師器は34点を図示した。全体に土師器坏と碗が主体を占めるように見えるが、残存率から土師器甕の図示できる物は少なくこのような比率になっている。特徴的な土器としては13の土師器坏が他の土師器とは作りがやや異なりいわゆる「土師質」坏と呼ばれる土器の範疇に入るのかもしれない。

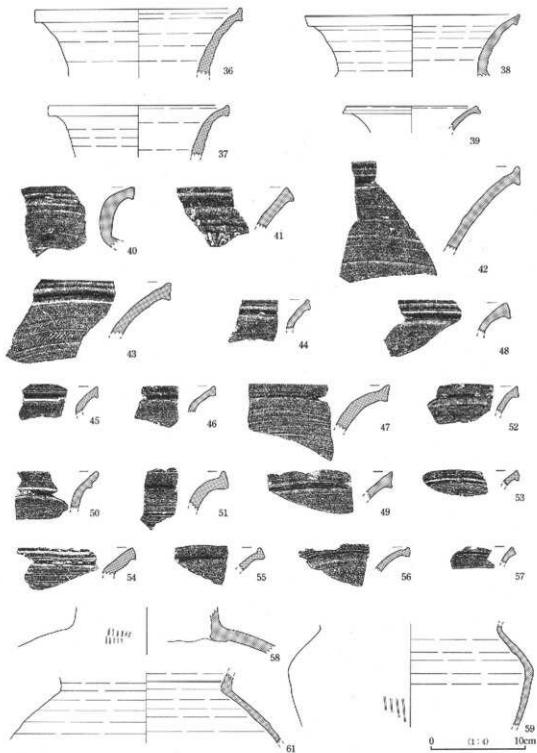
石製品は3点を図示した。石材は1が輝石安山岩、2が溶結凝灰岩、3は安山岩である。いずれも先端部に印痕があり当該期の住居址等の遺構より出土している敲石と形態がよく似るため遺構外遺物であるがここに掲載した。



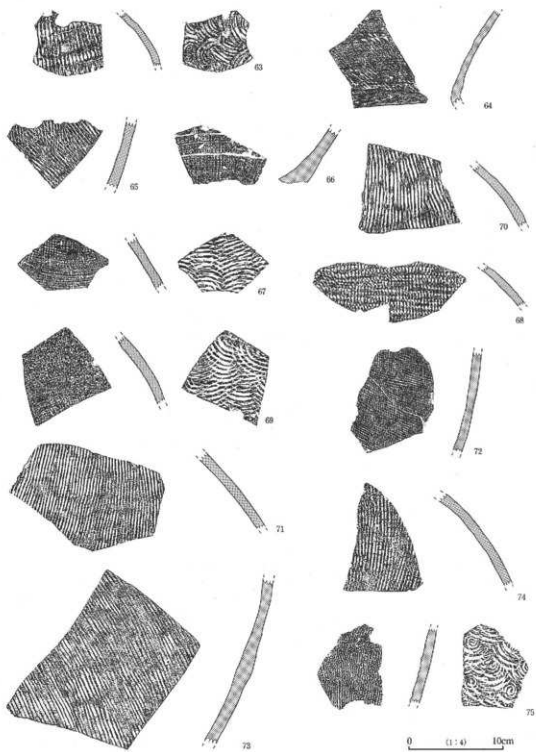
第157図 遺構外出土遺物実測図(灰釉陶器)



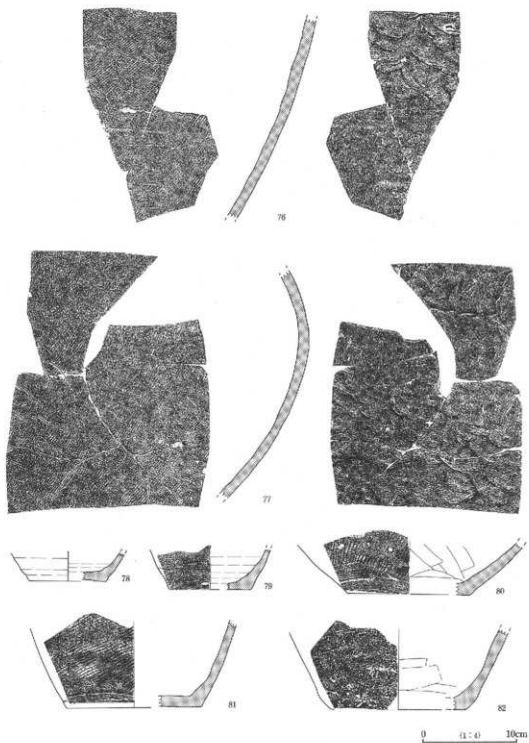
第158図 遺構外出土遺物実測図(須恵器①)



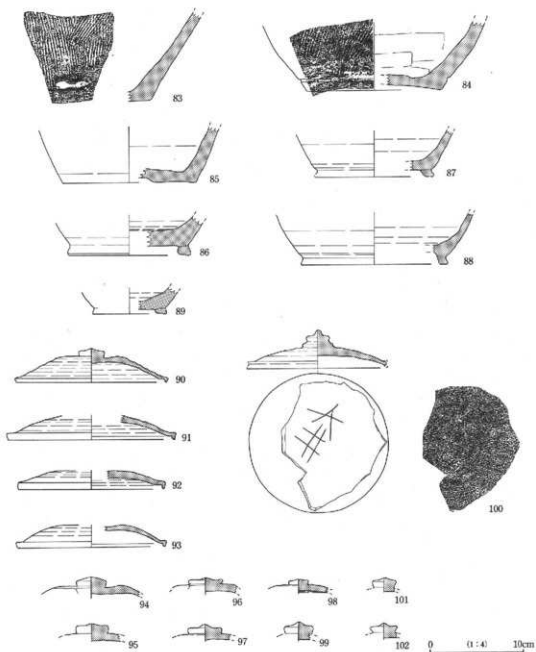
第159图 遺構外出土遺物実測図(須忠器②)



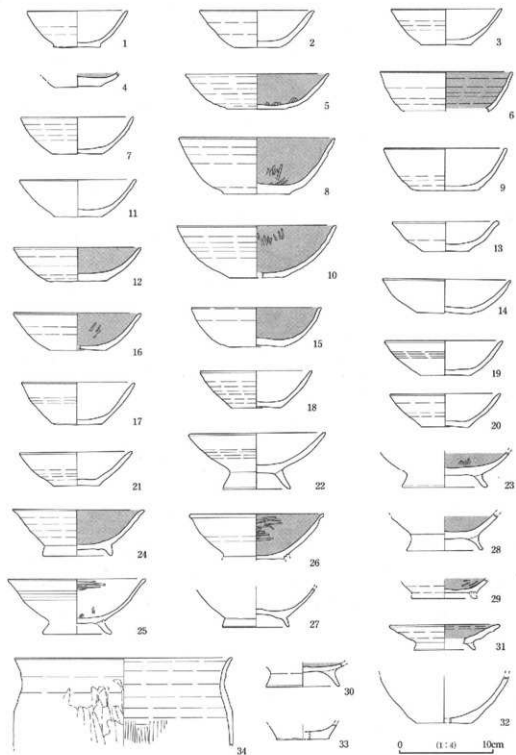
第160图 道標外出上道物実測図(須忠器③)



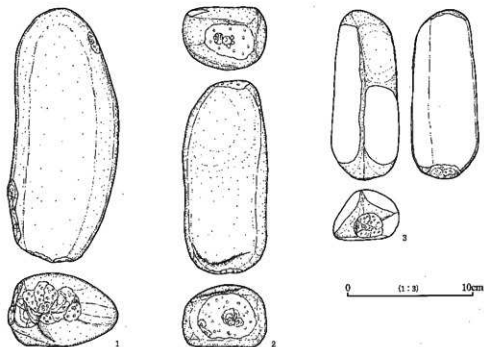
第161图 遺構外出土遺物実測図(須恵器①)



第162図 遺構外出土遺物実測図(須恵器⑤)



第163图 遺構外出土遺物実測図(土埴器)



第164図 遺構外出土遺物実測図(石製品)

標図 番号	器種	量(cm)			成形・調整		色調	
		口径	器高	底径	外面・内面	胎土		
I-ター6 1	灰胎 甕	(16.0)	4.9	(9.1)	外面 内面	ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 ロクロ成形 ※内外面施釉あり(漬け掛り) よく磨かれている	7.5Y7/1 灰白	よく精練されている
I-ス5 2	灰胎 甕	---	<2.9>	(7.9)	外面 内面	ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 ロクロ成形 ※内外面施釉あり(ハケ塗り?)	7.5Y7/1 灰白	よく精練されている 黒色粒子微量含む
I-コ15 4	灰胎 甕	---	<2.1>	(7.0)	外面 内面	ロクロ成形・底部糸切り後、高台貼付 ロクロ成形 ※内外面施釉あり(ハケ塗り?)	7.5Y7/1 灰白	よく精練されている 黒色粒子微量含む
F-ク9 5	灰胎 甕	---	<2.3>	(6.4)	外面 内面	ロクロ成形・底部回転ヘラケズリ後、高台貼付 ロクロ成形 ※内面よく磨かれ、施釉あり	7.5Y7/1 灰白	よく精練されている 黒色粒子含む
N-カ1 6	灰胎 甕	(9.0)	<1.5>	(7.0)	外面 内面	ロクロ成形・底部回転ヘラケズリ後、高台貼付 ロクロ成形 ※内面よく磨かれている	N8/灰白	よく精練され、黒色粒子も多量含む 粘質土質
J-キ20 7	灰胎 甕	---	<1.3>	(7.6)	外面 内面	ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 ロクロ成形 ※内外面に膠付層 口縁部を人為的に破壊してある	N6/灰	よく精練されている
I-サ7 8	灰胎 甕	(10.4)	2.0	(5.6)	外面 内面	ロクロ成形・高瀬回転ヘラケズリ後、高台貼付 ロクロ成形 ※内面全体施釉あり(ハケ塗り)	7.5Y7/1 灰白	よく精練されている
I-ク2 9	灰胎 甕	---	<2.1>	(10.8)	外面 内面	ロクロ成形・底部回転ヘラケズリ後、高台貼付 ロクロ成形 ※内外面施釉あり	7.5Y6/1 灰	黒色の砂粒を含み、ざらざらしている
N区一 区10	灰胎 長頸甕	---	<2.0>	(11.2)	外面 内面	ロクロ成形・底部切り難し(調整不明) 後、高台貼付 ロクロ成形 ※内外面施釉あり	7.5Y7/2 灰白	よく精練されている
J-カ19 11	灰胎 長頸甕	---	<2.7>	(12.0)	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	7.5Y7/2 灰白	よく精練され、小石を少量含む

第57表 遺構外出土遺物観察表(灰胎陶器)

検出 番号	器種	法 量 (cm)			成 形 ・ 調 整		色 調
		口径	器高	底径	外 面 ・ 内 面	胎 土	
J-キ-18 1	須恵器 杯	(12.0)	3.9	(5.5)	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形	5YR6/4 におい橙 径1-2mmの黒色粒子を多く含む
N-キ-1 2	須恵器 杯	(12.5)	3.9	(6.8)	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形	N6/灰 径1-2mmの白色砂粒を含む
J-キ-7 3	須恵器 杯	(14.3)	4.0	6.3	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形	2.5GY6/1 オリーブ灰 径1-2mmの砂粒を多く含む
M-セ-1 4	須恵器 杯	13.3	4.2	8.4	外面 内面	クワロ成形・底縁手持ちヘラケズリ クワロ成形 ※火だすき痕あり	10YR7/4 におい黄橙 径1-2mmの砂粒を多く含む
I-ス-8 5	須恵器 杯	(14.4)	4.5	6.3	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形	10YR7/2 におい黄橙 径1-2mmの黒色粒子を多く含む
I-チ-8 6	須恵器 杯	(12.4)	3.8	(6.0)	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形 ※火だすき痕あり	7.5Y6/1 灰 径2-3mmの黒色粒子を少量含む
I-チ-7 7	須恵器 杯	14.0	4.2	6.0	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形 土くぼかされている ※火だすき痕あり	N5/灰 径2-3mmの黒色粒子と径1-2mmの白色粒子を多く含む
J-ク-19 8	須恵器 杯	(14.0)	3.6	6.8	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形 ※火だすき痕あり	5G6/1 緑灰 径2-3mmの黒色粒子を多く含む
N-ク-2 9	須恵器 杯	(12.5)	3.9	(6.8)	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形	2.5GY6/1 オリーブ灰 径2-3mmの赤色粒子を多く含む
J-ク-19 10	須恵器 杯	(13.6)	3.5	(7.0)	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形 ※内面磨かれている ※火だすき痕あり	2.5GY3/1 オリーブ灰 径1-2mmの白色粒子を含む
J-ス-11 11	須恵器 杯	(15.0)	4.0	6.4	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形 ※火だすき痕あり 赤変	5YR4/2 灰褐 径2-3mmの黒色粒子と径1-2mmの白色粒子を含む
J-カ-18 12	須恵器 杯	(15.7)	<5.5>	---	外面 内面	クワロ成形 クワロ成形	N3/陶灰 径1-2mmの赤色粒子を微量含む
J-キ-18 13	須恵器 杯	---	<2.4>	7.0	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形 ※火だすき痕あり	2.5GY7/1 明オリーブ灰 径2-3mmの白色粒子を含む
M-キ-11 14	須恵器 杯	---	<3.1>	(8.6)	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形	2.5GY7/1 明オリーブ灰 径2-3mmの黒色粒子を少量含む
J-カ-19 15	須恵器 杯	---	<2.4>	5.7	外面 内面	クワロ成形・底縁静止糸切り クワロ成形	N5/灰 径1-2mmの赤色粒子を少量含む
J-ク-20 16	須恵器 杯	---	<2.1>	6.3	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形	5YR3/1 黒褐 径2-3mmの小石を含む
I-キ-13 17	須恵器 杯	---	<2.3>	6.2	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形 ※火だすき痕あり	5B4/1 暗青灰 径1-2mmの黒色粒子を含む
J-ス-20 18	須恵器 杯	(15.0)	<5.3>	---	外面 内面	クワロ成形 クワロ成形 ※内面針状物質混入? 腐比	5B5/1 青灰 径1-2mmの長石を含み、砂粒を含む
J-カ-18 19	須恵器 杯	---	<2.4>	6.9	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形	2.5GY7/1 明オリーブ灰 径1-2mmの砂粒を多く含む、ざらざらしている
I-カ-14 20	須恵器 杯	---	<1.4>	5.4	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形 ※火だすき痕あり	5B5/1 青灰 径1-2mmの黒色粒子を多く含む
I-キ-19 21	須恵器 杯	---	<1.6>	6.0	外面 内面	クワロ成形・底縁静止糸切り クワロ成形	2.5GY7/1 明オリーブ灰 径1-2mmの赤色粒子を多く含む
I-カ-14 22	須恵器 杯	---	<1.1>	7.2	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形	N6/灰 径1-2mmの白色粒子を多く含む
J-ア-14 23	須恵器 杯	---	<0.7>	4.8	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り クワロ成形	2.5GY8/1 灰白 径2-3mmの黒色粒子を多く含む
J-ア-18 24	須恵器 高台杯	(15.2)	6.0	(10.2)	外面 内面	クワロ成形・底縁回転糸切り兼、手持ち ヘラケズリ その後、高台焼付 クワロ成形	N3/陶灰 径2-3mmの黒色粒子の噴出物が多い

第58表 遺構外出土遺物観察表(須恵器①)

棟号	器種	法 量(m)			成 形・測 量		色 調
		口径	器高	底径	外 面・内 面		
J-ク-18 25	須恵器 高台杯	---	(3.7)	8.7	外面 内面	ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 ロクロ成形	N4/灰 径2-3mmの黒色粒子の噴出物が多い
J-キ-18	須恵器 高台杯	---	(2.7)	(9.9)	外面 内面	ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 ロクロ成形	5YR4/2 灰褐色 径2-3mmの小石を少量含む
表様 27	須恵器 高台杯	---	(1.8)	(10.4)	外面 内面	ロクロ成形・底部回転糸切り後、手持ち ヘラケズリ その後、高台貼付 ロクロ成形	5B5/1 青灰 径1-2mmの黒色粒子と砂粒を多く含む
I-カ-14 28	須恵器 高台杯	---	(1.4)	9.4	外面 内面	ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 ※耳厚、意図的な打ち欠き	N5/灰 径1-2mmの白色砂粒を多く含む
J-エ-19 29	須恵器 高台杯	---	(1.6)	(11.0)	外面 内面	ロクロ成形・底部回転糸切り後、手持ち ヘラケズリ その後、高台貼付 ロクロ成形	N7/灰白 径1-2mmの黒色粒子を多く含む
I-チ-8 30	須恵器 高台杯	---	(2.0)	8.2	外面 内面	ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 ロクロ成形	2.5GY7/1 明オリーブ灰 径1-2mmの砂粒を多く含む
J-ク-18 31	須恵器 甕	---	(9.3)	---	外面 内面	ロクロ成形 ※自然輪付着 ロクロ成形	N6/灰(内面) 径1-2mmの白色粒子を多く含む
M-ウ-16 32	須恵器 甕	---	(4.0)	(6.4)	外面 内面	ロクロ成形・底部調整不明 ロクロ成形	N6/灰 径1-2mmの白色粒子を多く含む
J-エ-19 33	須恵器 長頸壺	---	(4.9)	---	外面 内面	ロクロ成形・底部切り離し後、手持ちヘ ラケズリ ロクロ成形	N4/灰(内面) 径1-2mmの白色粒子を多く含む
I-ツ-7 34	須恵器 長頸壺	---	(2.6)	(11.3)	外面 内面	ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 ロクロ成形 ※自然輪付着	5YR4/1 褐色 径2-3mmの長石を含む
N-コ-1 35	須恵器 長頸壺	---	(2.4)	(7.5)	外面 内面	ロクロ成形・底部回転糸切り 後自然輪付着 ロクロ成形	N5/灰 断面赤化しており、径1-2mmの白色粒子を含む
I-タ-7 36	須恵器 甕	(22.0)	(7.1)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形 ※内外面自然輪付着	7.5YR4/1 褐色(断面) 径1-2mmの黒色粒子を少量含む
J-ク-20 37	須恵器 甕	(19.0)	(5.4)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	N5/灰 径1-2mmの赤色粒子を多く含む
N-ク-2 38	須恵器 甕	(22.8)	(6.7)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	N4/灰 径1-2mmの白色砂粒を多く含む
I-シ-10 39	須恵器 甕	(13.7)	(2.8)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	N5/灰 径1-2mmの白色砂粒を含む
E-オ-19 40	須恵器 甕	---	(6.4)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	N6/灰 径2-3mmの長石を微量含む
M-キ-12 41	須恵器 甕	---	(4.4)	---	外面 内面	ロクロ成形 液状文あり ※自然輪付着 ロクロ成形	N4/灰 径1-2mmの白色粒子を多く含む
J-ク-20 42	須恵器 甕	---	(10.0)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形 ※43と同一個体	N3/暗灰 径1-2mmの白色粒子を多く含む
J-ク-20 43	須恵器 甕	---	(7.7)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形 ※42と同一個体	N3/暗灰 径1-2mmの白色粒子を多く含む
II区 一浜 44	須恵器 甕	---	(3.1)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形 ※自然輪付着	N4/灰 径1-2mmの白色粒子を微量含む
J-カ-19 45	須恵器 甕	---	(3.4)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	N3/暗灰 径1-2mmの白色粒子を微量含む
I-タ-7 46	須恵器 甕	---	(3.2)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形 ※自然輪付着	N3/暗灰 径1-2mmの白色粒子を微量含む
B-カ-1 47	須恵器 甕	---	(6.2)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	N3/暗灰 径1-2mmの白色粒子を少量含む
I-セ-6 48	須恵器 甕	---	(3.8)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形 ※断面赤化	N3/暗灰 径1-2mmの白色粒子を少量含む

第59表 遺構外出土遺物観察表(須恵器②)

標記 番号	器種	法 量(cm)			成 形 ・ 調 整		色 調 胎 土
		口徑	器高	底径	外 面 ・ 内 面		
ト-7 49	須恵器 甕	---	(3.4)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	N3/暗灰 径1-2mmの砂粒を多く含む
J-エ-18 50	須恵器 甕	---	(3.9)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	N3/暗灰 径1-2mmの白色粒子を少量含む
M-ク-12 51	須恵器 甕	---	(5.0)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	N4/灰 径1-2mmの赤色粒子を少量含む
E-オ-19 52	須恵器 甕	---	(2.9)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	10BG5/1 青灰 径1-2mmの白色粒子を多く含む
I-ス-6 53	須恵器 甕	---	(1.6)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	N3/暗灰 径1-2mmの白色粒子を含む
I-タ-4 54	須恵器 甕	---	(3.5)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	2.5GY7/1 明オリブ灰 径1-2mmの白色粒子を少量含む
F-ク-11 55	須恵器 甕	---	(3.0)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	2.5GY6/1 オリブ灰 径1-2mmの赤色粒子を少量含む
I-ウ-8 56	須恵器 甕	---	(3.8)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	N4/灰 径1-2mmの白色粒子を多く含む
ト-7 57	須恵器 甕	---	(1.8)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	※自然輪付着 ※断面赤化 径1-2mmの白色粒子を少量含む
N-ク-2 58	須恵器 甕	---	(6.8)	---	外面 内面	タタキ後ナデ ナデ	※自然輪付着 N6/灰 径1-2mmの白色粒子を少量含む
J-ク-19 59	須恵器 甕	---	(11.0)	---	外面 内面	タタキ後ナデ ロクロ成形	※自然輪付着 N4/灰 径1-2mmの長石と黒色噴出物を多く含む
80	欠 番						
M-ク-12 61	須恵器 短頸甕	---	(7.5)	---	外面 内面	ロクロ成形 ロクロ成形	2.5GY7/1 明オリブ灰(内面) よく精錬されている
62	欠 番						
J-オ-19 63	須恵器 甕	---	(5.1)	---	外面 内面	タタキ後ナデ 同心円文	N5/灰 径1-2mmの白色粒子を少量含む
B-オ-18 64	須恵器 甕	---	(10.4)	---	外面 内面	タタキ ロクロ成形	N4/灰 径1-2mmの白色粒子を少量含む
I-ウ-8 65	須恵器 甕	---	(6.8)	---	外面 内面	タタキ後ナデ タタキ後磨ってある	2.5GY8/1 灰白 径1-2mmの白色粒子を少量含む
J-イ-13 66	須恵器 甕	---	(5.7)	---	外面 内面	タタキ 磨ってある	N6/灰 径1-2mmの黒色粒子を多く含む
Z-カ-14 67	須恵器 甕	---	(4.9)	---	外面 内面	タタキ後ナデ 同心円文	※断面赤化 5B5/1 青灰 径1-2mmの黒色粒子と白色粒子少量含む
J-ク-20 68	須恵器 甕	---	(4.2)	---	外面 内面	タタキ後、磨ってある 同心円文後、磨ってある	2.5GY8/1 灰白 小石を少量含む
F-ク-4 69	須恵器 甕	---	(6.7)	---	外面 内面	タタキ後ナデ 同心円文	※断面赤化 2.5GY6/1 オリブ灰 径1-2mmの白色粒子を少量含む
F-ク-12 70	須恵器 甕	---	(6.4)	---	外面 内面	タタキ後、ナデ ナデ	N7/灰白 径1-2mmの小石を多く含む、ざらざらしている
J-オ-18 71	須恵器 甕	---	(7.4)	---	外面 内面	タタキ後、ナデ ナデ	※断面赤化 N4/灰 径1-2mmの白色粒子を多く含む
J-ア-13 72	須恵器 甕	---	(10.5)	---	外面 内面	タタキ後、ナデ タタキ後、ナデ	2.5GY7/1 明オリブ灰 径1-2mmの白色粒子を少量含む

第60表 遺構外出土遺物観察表(須恵器③)

標記 番号	器種	法 量 (cm)			成 形 ・ 割 整	色 調
		口径	器高	底径		
I-セ-6 73	須恵器 甕	---	(16.9)	---	外面 タタキ後、ナデ 内面 ナデ	N3/暗灰 径2~3mmの黒色粒子を微量含む
M-A-14 74	須恵器 甕	---	(9.0)	---	外面 タタキ後、ナデ 内面 ナデ	N6/灰 径1~2mmの白色粒子を多く含む
H-サ-15 75	須恵器 甕	---	(8.0)	---	外面 タタキ後、ナデ 内面 同心円文	5B5/1 青灰 径1~2mmの白色粒子、黒色粒子多く含む
N-ク-1 76	須恵器 甕	---	(20.4)	---	外面 タタキ後、ナデ 内面 当て具による成形後、ナデ ※77と同一個体の可能性あり	5B5/1 青灰 径2~3mmの黒色粒子を微量含む
N-ク-1 77	須恵器 甕	---	(24.5)	---	外面 タタキ後、ナデ 内面 当て具による成形後、ナデ ※76と同一個体の可能性あり	5B5/1 青灰 径2~3mmの黒色粒子を微量含む
J-ク-20 78	須恵器 甕	---	(3.2)	(8.1)	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	N3/暗灰 砂粒を微量含む
I-ク-13 79	須恵器 甕	---	(4.3)	(8.8)	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り 内面 ロクロ成形	N3/暗灰 径2~3mmの黒色粒子を多く含む
E区 80	須恵器 甕	---	(5.6)	(13.2)	外面 タタキ後、ナデ 内面 ナデ	2.5GY7/1 明オリブ灰 径1~2mmの白色砂粒を多く含む
J-カ-19 81	須恵器 甕	---	(9.1)	(14.3)	外面 タタキ後、ナデ 内面 ナデ	N3/暗灰 径1~2mmの白色砂粒を少量含む
I区 -45 82	須恵器 甕	---	(8.5)	(14.4)	外面 ナデ 内面 ナデ	N3/暗灰 径1~2mmの白色粒子を少量含む
M-ク-12 83	須恵器 甕	---	(9.2)	---	外面 タタキ後ナデ 内面 ナデ	N3/暗灰 黒色の噴出物を多く含む
J-イ-18 84	須恵器 甕	---	(7.2)	(14.3)	外面 タタキ後ナデ 内面 ナデ	N3/暗灰 径2~3mmの黒色粒子を多く含む
I-チ-8 85	須恵器 甕	---	(6.0)	(14.2)	外面 ナデ 内面 ナデ	N3/暗灰 径1~2mmの白色砂粒を多く含む
J-カ-19 86	須恵器 長頸甕	---	(4.3)	(13.1)	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 内面 ロクロ成形	N6/灰 径1~2mmの黒色粒子を多く含む
I-ゴ-13 87	須恵器 長頸甕	---	(5.0)	(12.6)	外面 ロクロ成形・底部切り離し後、高台貼付 内面 ロクロ成形	N6/灰 黒色の噴出物が多い
J-オ-19 88	須恵器 長頸甕	---	(5.5)	(15.6)	外面 ロクロ成形・底部切り離し後、高台貼付 内面 ロクロ成形	N4/灰 径1~2mmの白色粒子を多く含む
J-ケ-19 89	須恵器 長頸甕	---	(4.3)	(13.1)	外面 ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 内面 ロクロ成形	N5/灰 径1~2mmの白色粒子を多く含む
N-キ-1 90	須恵器 甕	(16.2)	3.6	---	外面 ロクロ成形・天井部回転糸切り後、回転 ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	N6/灰 砂粒を微量含む
I-ク-13 91	須恵器 甕	(18.0)	(3.2)	---	外面 ロクロ成形・天井部回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	N6/灰 径1~2mmの白色粒子を少量含む
J-キ-20 92	須恵器 甕	(15.6)	(2.0)	---	外面 ロクロ成形・天井部回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	N5/灰 径1~2mmの白色粒子を多く含む
F-カ-15 93	須恵器 甕	(16.0)	(2.4)	---	外面 ロクロ成形・天井部回転ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	5YR4/1 褐灰 径1~2mmの白色粒子を多く含む
I-セ-6 94	須恵器 甕	---	(2.3)	---	外面 ロクロ成形・天井部回転糸切り後、手持 ちヘラケズリ 内面 ロクロ成形	5B5/1 青灰 径1~2mmの白色、赤色粒子を少量含む
I-チ-7 95	須恵器 甕	---	(1.9)	---	外面 ロクロ成形・天井部切り離し後、つまみ 貼付 内面 ロクロ成形	7.5YR4/1 褐灰 黒色の噴出物を少量含む
I-カ-12 96	須恵器 甕	---	(1.7)	---	外面 ロクロ成形・天井部手持ちヘラケズリ後、 つまみ貼付 内面 ロクロ成形	5B5/1 青灰 径1~2mmの白色粒子を少量含む

第61表 遺構外出土遺物観察表(須恵器④)

標頭 番号	器種	法 量 (cm)			成形・調整	色 調
		口径	器高	底径		
I-セ-6 97	須恵器 甕	---	(1.7)	---	外面 ロクロ成形・天井部切り離し後、つまみ 貼付 内面 ロクロ成形	5B5/1 青灰 砂粒を少量含む
I-チ-9 98	須恵器 甕	---	(1.5)	---	外面 ロクロ成形・天井部切り離し後、つまみ 貼付 内面 ロクロ成形 面つまみ上にキザみあり	2.5GY7/1 明オリブ灰 径1-2mmの白色砂粒を多く含む
I-キ-8 99	須恵器 甕	---	(1.9)	---	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	5B5/1 青灰 径1-2mmの白色砂粒を含む
Z-オ-16 100	須恵器 甕	(14.9)	(3.9)	---	外面 ロクロ成形・天井部切り離し後、つまみ 貼付 内面 ロクロ成形 ※内面に「大井」の刻書あり	2.5GY7/1 明オリブ灰 径1-2mmの黒色粒子を少量含む
M-イ-11 101	須恵器 甕	---	(1.5)	---	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	5R3/1 濁土灰 黒色の噴出物あり
J-ア-12 102	須恵器 甕	---	(1.6)	---	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形	5B5/1 青灰 径1-2mmの白色砂粒を含む

J-オ-19 1	土師器 杯	(10.6)	3.8	5.0	外面 ロクロ成形・底面回転糸切り 内面 ロクロ成形 [柱状作りの可能性]	5YR7/4 におい橙 径2-3mmの赤色粒子を多く含む
J-カ-19 2	土師器 杯	(12.2)	3.9	5.0	外面 ロクロ成形・底面回転糸切り 内面 ロクロ成形 内面内面付着	10YR7/2 におい黄橙 径1-2mmの赤色粒子を少量含む
F-ウ-16 3	土師器 杯	11.7	5.2	3.8	外面 ロクロ成形・底面回転糸切り 内面 ロクロ成形 器内外面・タール状物質 付着	5YR7/6 橙 砂粒を少量含む
G-サ-9 4	土師器 杯	---	(1.2)	4.9	外面 ロクロ成形・底面回転糸切り 内面 ヘラミガキ? 黒色処理	7.5YR7/3 におい橙 径1-2mmの赤色粒子を少量含む
J-キ-19 5	土師器 杯	(15.2)	3.7	6.5	外面 ロクロ成形・底面す持ちヘラズリ 内面 ヘラミガキ 黒色処理	7.5YR6/2 灰褐 白色の粒子を少量含む
G-サ-19 6	土師器 杯	(14.0)	(4.2)	(9.2)	外面 ロクロ成形 内面 ロクロ成形 黒色処理	7.5YR7/6 橙 径1-2mmの赤色粒子を多く含む
M-ア-7 7	土師器 杯	(12.0)	4.0	5.4	外面 ロクロ成形・底面回転糸切り 内面 ロクロ成形	5YR7/8 橙 径1-2mmの赤色粒子を多く含む、ざらざらしている
F-ス-4 8	土師器 杯	(16.3)	6.0	6.5	外面 ロクロ成形・底面回転糸切り 内面 ヘラミガキ 黒色処理	5YR7/4 におい橙 径1-2mmの赤色粒子を多く含む
F-ス-8 9	土師器 杯	13.1	4.5	7.3	外面 ロクロ成形・底面回転糸切り 内面 ロクロ成形	2.5YR6/6 橙 径1-2mmの赤色粒子を多く含む
M-ウ-12 10	土師器 杯	(17.0)	5.5	(6.0)	外面 ロクロ成形・底面調整不明 内面 ヘラミガキ 黒色処理	7.5YR6/4 におい橙 径1-2mmの赤色粒子を多く含む
M-ア-7 11	土師器 杯	12.4	3.9	5.0	外面 ロクロ成形・底面回転糸切り? 内面 ロクロ成形	5YR7/6 橙 径1-2mmの赤色粒子を多く含む
I-ク-2 12	土師器 杯	(13.5)	3.6	6.2	外面 ロクロ成形・底面回転糸切り 内面 ナデ後、黒色処理	5YR7/4 におい橙 径1-2mmの赤色粒子を多く含む、ざらざらしている
I-タ-9 13	土師器 杯	(11.4)	3.2	(4.9)	外面 ロクロ成形・底面回転糸切り 内面 ロクロ成形 黒色処理	5YR6/8 橙 砂粒を多く含む、ざらざらしている
L-コ-19 14	土師器 杯	13.6	3.5	6.0	外面 ロクロ成形・底面回転糸切り 内面 ロクロ成形	7.5YR7/4 におい橙 径1-2mmの赤色粒子多量と砂粒を含む
M-キ-12 15	土師器 杯	(13.8)	4.2	6.0	外面 ロクロ成形・底面回転糸切り 内面 ヘラミガキ 黒色処理	5YR7/6 橙 径1-2mmの赤色粒子と砂粒を含む
M-キ-12 16	土師器 杯	(13.5)	4.0	(5.8)	外面 ロクロ成形・底面回転糸切り 内面 ヘラミガキ 黒色処理	7.5YR7/4 におい橙 径1-2mmの赤色粒子を多く含む
I区 一筋 17	土師器 杯	12.0	4.4	5.3	外面 ロクロ成形・底面回転糸切り 内面 ロクロ成形	5YR7/6 橙 径2-3mmの赤色粒子を多く含む

第62表 遺構外出土遺物観察表(須恵器⑤土師器①)

神田 番号	器種	法 量(cm)			成形・調整	色 調
		口径	器高	底径		
I区 一括 16	土師器 環	11.9	3.7	5.3	外面 内面 ロクロ成形・底部回転糸切り	7.5YR7/6 橙 径2～3mmの赤色粒子を多く含む
I区 一括 19	土師器 環	12.6	3.7	5.3	外面 内面 ロクロ成形・底部回転糸切り	7.5YR5/6 橙 径1～2mmの赤色粒子と砂粒を含む
I区 一括 20	土師器 環	11.8	3.5	5.0	外面 内面 ロクロ成形・底部調整不明	7.5YR6/6 橙 径1～2mmの赤色粒子を多く含む
I区 一括 21	土師器 環	11.9	3.5	4.8	外面 内面 ロクロ成形・底部回転糸切り	7.5YR6/6 橙 径1～2mmの赤色粒子を多く含む
I区 一括 22	土師器 環	14.6	5.9	7.2	外面 内面 ロクロ成形・底部切り離し後、高台貼付	7.5YR6/6 橙 径1～2mmの赤色粒子を多く含む
M-キ-12 23	土師器 碗	---	(3.9)	9.0	外面 内面 ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 ヘラミガキ・黒色処理	7.5YR7/6 橙 径1～2mmの赤色粒子と砂粒を多く含む。ざらざらしている
A-ア-17 24	土師器 碗	13.9	5.0	7.3	外面 内面 ロクロ成形・底部切り離し後、高台貼付 ※外面に保存層 調整不明・黒色処理	5YR7/6 橙 径2～3mmの赤色粒子を多く含む
L-ト-7 25	土師器 碗	(14.5)	(4.8)	---	外面 内面 ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 (高台欠損) ヘラミガキ	5YR7/4 に近い橙 径1～2mmの赤色粒子と砂粒を少量含む
L-コ-17 26	土師器 碗	(14.7)	(4.8)	---	外面 内面 ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 (高台欠損) ヘラミガキ・黒色処理	7.5YR7/6 橙 径2～3mmの赤色粒子を少量含む
M-ク-12 27	土師器 碗	---	4.2	7.8	外面 内面 ロクロ成形・底部切り離し後、高台貼付 調整不明	7.5YR7/6 橙 径2～3mmの赤色粒子を多く含む
B-ア-9 28	土師器 碗	---	(3.7)	8.1	外面 内面 ロクロ成形・底部回転糸切り ヘラミガキ・黒色処理	5YR7/6 橙 径1～2mmの赤色粒子を少量含む
B-ア-9 29	土師器 碗	---	(1.3)	7.1	外面 内面 ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 (高台欠損) ヘラミガキ・黒色処理	10YR7/3 に近い橙 径1～2mmの赤色粒子を少量含む
H-セ-20 30	土師器 皿	---	(2.5)	7.8	外面 内面 ロクロ成形・底部回転糸切り後、高台貼付 ヘラミガキ・黒色処理 ※内面保存層	7.5YR6/8 橙 砂粒を少量含む
M-ク-12 31	土師器 皿	(11.8)	2.7	(6.6)	外面 内面 ロクロ成形 ヘラミガキ? 黒色処理	5YR7/8 橙 径1～2mmの赤色粒子と砂粒を多く含む
B-ア-9 オ-9 32	土師器 小皿型	---	(4.9)	5.9	外面 内面 調整不明 ヘラナゲ	7.5YR7/6 橙 径2～3mmの砂粒を多く含む
II区 一括 33	土師器 小皿型	---	(1.6)	(5.4)	外面 内面 ロクロ成形・底部回転糸切り ロクロ成形	7.5YR7/4 に近い橙 砂粒を少量含む
G-リ-19 34	土師器 盤	(23.0)	(9.4)	---	外面 内面 ロクロ成形後、銅部ナゲ ロクロ成形後、銅部ハケメ	7.5YR8/6 浅黄橙 径2～3mmの赤色粒子を少量含む

第63表 遺構外出土遺物観察表(土師器)

第三章 考察

第1節 榛名平遺跡出土の灰釉陶器について

本遺跡からは猿投・東濃産と考えられる須恵器や灰釉陶器が出土した。よってそれら資料を愛知県陶磁資料館主任学芸員井上喜久男氏に実見鑑定していただいた。以下に結果を記載する。

遺物番号	種別	窯期
I H10-1	輪花皿	光ヶ丘1号窯期
II H1-1	皿	大原2号窯期
III H3-5,6	長頸瓶	光ヶ丘1号窯期
II H9-4	長頸瓶	新戸10号窯期
II H12-2	皿	光ヶ丘1号窯期
II H20-1	碗	光ヶ丘1号窯期
II H22-1	碗	黒笹90号窯期
II H6-1	碗	光ヶ丘1号窯期
II H12-3	短頸壺	光ヶ丘1号窯期
II H28-1	輪花皿	大原2号窯期
II H28-2	碗	大原2号窯期
II H31-3	長頸瓶	黒笹14号窯期

遺物番号	種別	窯期
遺跡外1	碗	光ヶ丘1号窯期
2	碗	光ヶ丘1号窯期
4	碗	光ヶ丘1号窯期
5	碗	大原2号窯期
6	碗	大原2号窯期
7	碗	光ヶ丘1号窯期
8	皿	黒笹14号窯期
9	長頸瓶	黒笹90号窯期
10	長頸瓶	光ヶ丘1号窯期
11	長頸瓶	光ヶ丘1号窯期

これら結果は実測した個体のみで小片については行わなかった為、実数は不確定である。しかし遺跡全体の傾向は示し得ると思う。それによると灰釉陶器21点の内、東濃光ヶ丘1号窯期が12点と最も多く約50%を占める。これに対しほぼ同時期型式とされる猿投黒笹90号窯期は僅か2点である。また、他の型式の物については大原2号窯期が5点、黒笹14号窯期が2点である。東濃産は光ヶ丘期と大原期の物も含めると全体の80%を占める。また、「奈良三彩蓋」については8世紀後半代の所産時期という鑑定結果を頂いた。

この事から榛名平遺跡においては東濃産の灰釉陶器がおもに持ち込まれていることが解る。もし、持ち込まれている灰釉陶器の黒笹90号窯期のものと光ヶ丘1号窯期の物が時間差があると仮定すれば、9世紀後半以降の当遺跡の灰釉陶器は東濃産で占められる事となる。この事実は先の松本平での調査研究成果と同じ結果と言える。ただこの結果が直ちに佐久平全体の動向であるかどうかは慎重になるべきと考える。特に、松本平や佐久平北側部分で調査された遺跡には光ヶ丘と大原期の灰釉が同時に一遺構より出土する事が多い様に言われている。しかし、本遺跡は絶対的な資料数の少なさもあろうが、そのような傾向は掴めなかった。このことは、本遺跡が「東山道」の推定ルートよりも遙かに離れて所在することなどの理由があるのかもしれない。

以上、本遺跡出土の灰釉陶器についてまとめてみた。ただ本来であれば周辺遺跡の出土状況も踏まえ総括すべきであり、また特殊な出土遺物である「奈良三彩蓋」の出土意義についても考えなければならないが、筆者の力量不足で雑ばくなまとめとなってしまった。今後の周辺域の調査成果に期待したい。

第2節 榛名平遺跡の奈良・平安時代の土器について

本節では当遺跡出土の古代律令期の土器について、住居址出土の遺物を中心にその時間的位置づけを考えてみたい。本遺跡で検出された竪穴住居址は63軒であるが、その内出土遺物がほぼまとまって出土したいわゆる一括遺物として捉えられる遺構は少なく約20軒ほどであった。これら20軒の竪穴住居址出土の資料について検討してみたい。

検討するにあたっては現在までの当該期の土器編年を整理しなければならない。まず、佐久平全域の地域編年を組み立てた論考としては高村博文の「佐久地方の平安時代土器編年試論」が唯一ある。また遺跡ごとの検討としては御代田町鈍物師屋遺跡群、小諸市関口遺跡、佐久市栗毛坂遺跡群、同市西一本柳遺跡等がある。これら成果は時期区分等で多少の異なる部分はあるがいずれも、土器組成や須恵器環・土師器環・土師器甕の形態変化の方向は同一の捉え方である。

では先学の研究成果を援用しつつ当遺跡の土器について考えてみたいが、ただ先に挙げた各遺跡はすべて佐久市北部や中央部の火山灰土に覆われた地域の遺跡であり、榛名平遺跡が所在する蓼科山麓や或いは野沢平のような沖積地内に所在する遺跡はまだ扱われていない。ただ近年、跡部徳田遺跡などの沖積地内遺跡が調査され当該期資料が充実してきている。今後これらの資料が発表されれば、北部地域の遺跡群との差異が判明するかもしれない。

①各期の設定

榛名平Ⅰ期

本期はⅡH9号、ⅡH12号、ⅡH17号、ⅢH9号住居址の4軒を指標とし、折戸10号窯式の須恵器が伴う。

須恵器環は底径が広く体部から口縁部にかけてややふくらみを持ちながら立ち上がる器形が主体(ⅡH12-6)であり、底部調整は回転糸切り離しであるが、一部ヘラケズリ調整の物(ⅡH17-1)も残る。

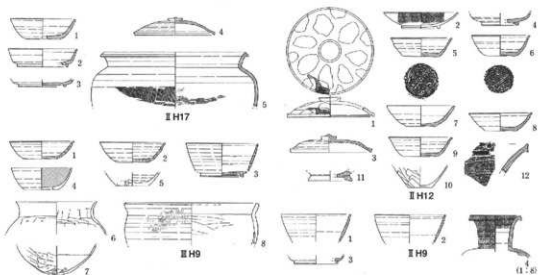
土師器環は須恵器環を模倣したようなやや厚底の環がある。土師器甕は良好な資料に恵まれないが、頸部が「コ」の字状に曲がるいわゆる武蔵甕が伴うと考えられる。なお、ⅡH17号住居址は当期の中でもやや古相を示す資料と考えられる。

榛名平Ⅱ期

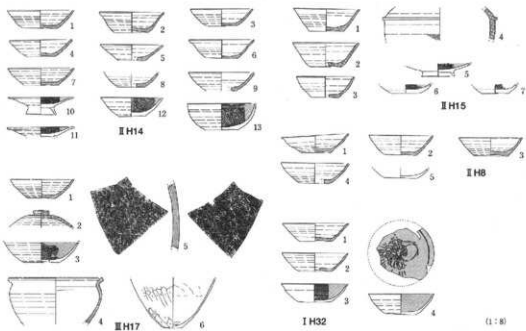
本期はⅠH32号、ⅡH8号、ⅡH14号、ⅡH15号、ⅢH17号住居址の5軒を指標とする。

須恵器環は前段階と異なり体部が直線的に開くタイプのものが主流となる。また底部も口径に比べ前段階よりも小さくなり、底部調整はすべて回転糸切り離しとなる。

土師器環は底部厚底で内面がよく磨かれ黒色処理された物が散見されるが、環の主体は依然須

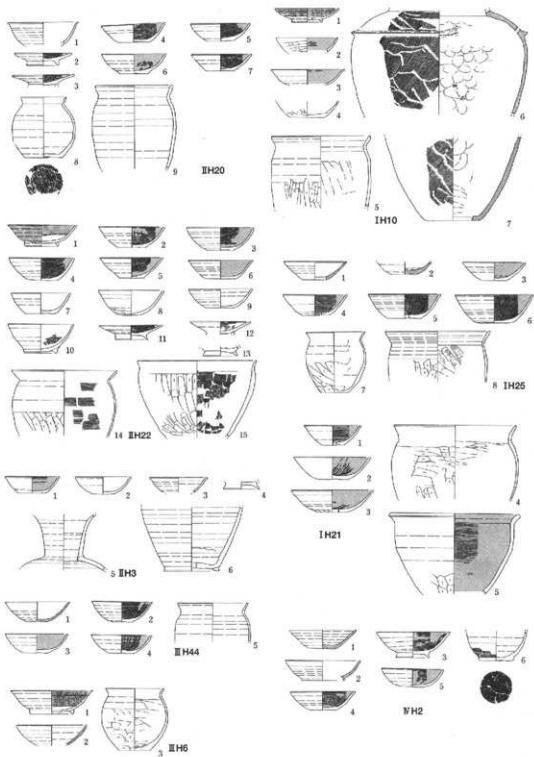


第165図 榛名平Ⅰ期の土器様相

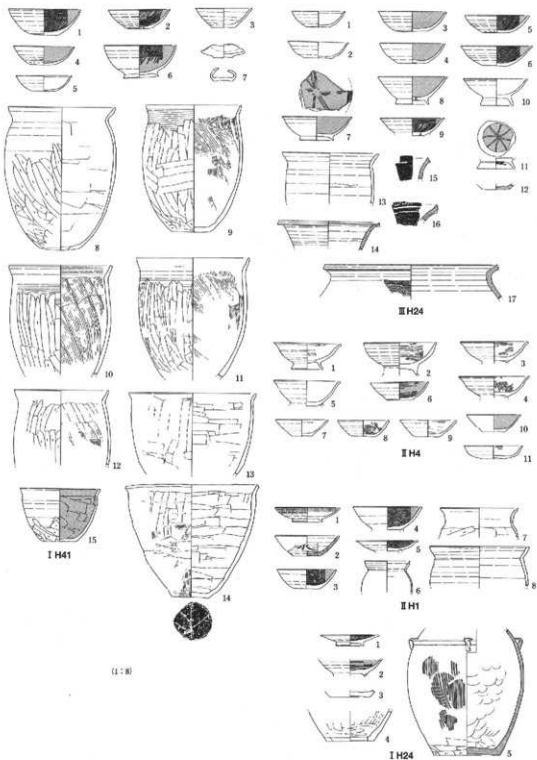


第166図 榛名平Ⅱ期の土器様相

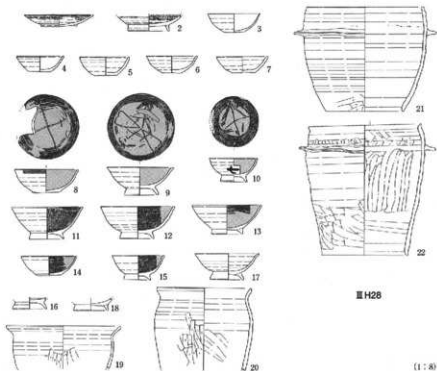
恵器が占める。土師器皿がこの期より含まれる。脚がやや長く内面はよく磨かれ黒色処理された物が多い。土師器甕については良好な資料がないが、前段階よりも器高が低くなるが武蔵甕がまだ存在するようである。



第167図 倭名平Ⅲ期の土器様相



第168図 埴名平IV期の土器様相



第169図 榛名平V期の土器様相

榛名平Ⅲ期

本期はIH10号、IH21号、IH25号、IIH3号、IIH20号、IIH22号、IIIH6号、IIIH44号、IVH2号住居址をそれぞれ指標とする。灰釉陶器は光ヶ丘1号窯式の資料が伴う。

須恵器環は前段階の形態を踏襲するが住居址内での量が激減する。

土師器環は前段階より深身であり、体部がやや丸みをもって立ち上がるタイプの物が主流となる。法量も大・中・小の3種類があるようであり、調整は内面が丁寧なミガキと黒色処理が施されている。また、内面のミガキは暗文風のものが多くなり、みこみ部から放射状に立ち上げて引くものが多い。

土師器Ⅲはやや脚が低くなる。また、この期より椀と呼べる高台の付いた環が出現する。調整的には環と変わらないが、脚は小さな物が多い。

土師器Ⅳは胴部上半がロクロ目が残るいわゆる「ロクロ甕」が主体となるが、頸部の「コ」の字が退化したような胴部ケズリの甕（IH21-4）なども存在する。須恵器では四耳壺が伴う。

榛名平Ⅳ期

本期はIH24号、IH41号、IIH1号、IIH4号、IIIH24号住居址を指標とする。灰釉陶器は大原2号窯式の資料が伴う。

須恵器環は組成から殆ど無くなる。

土師器環は前段階より浅く小型となるが、内面ミガキと黒色処理は行われている。

土師器碗は脚が長くなり、体部からふくらみをもって立ち上がるタイプのものが多い。土師器皿も少量ながら存在する。

土師器甕はロクロ甕が主体で口縁部側面に面を持つ物と持たない物の二つのタイプが存在する。形態的には底部が丸底気味の砲弾形である。須恵器は前段階と形態が異なる四耳壺が伴う。

榛名平V期

本期はⅢH28号住居址を指標とするが、本遺跡では1軒のみの資料であり不確実性がある。灰釉陶器は大原2号窯式が伴う。

土師器環は前段階よりもさらに小型化し内面のミガキや黒色処理が消失する。また底部には柱状の粘土から糸切り離したような痕跡が残る。

土師器碗は前段階と同じく脚が高く、体部がふくらみを持って立ち上がるタイプで、内面には暗文風のミガキを施している。この期より碗は土器組成の中で数量的に主体を占めている。

土師器甕はロクロ甕が存在し、この期には形態の異なる羽釜風の甕が伴っている。

以上、当遺跡の奈良・平安時代の土器資料を組成及び形態変化を主眼におき5期に区分した。これら5期の実年代と他遺跡との並行関係について触れておきたい。

まず、実年代であるが当遺跡からは実年代を求める文字資料或いは古銭等の出土はない。拠って参考となるのは灰釉陶器である。しかし、当遺跡の様な遠隔の消費地は生産地での実年代観をそのままトレースする危険性は考慮しなければならない。ただ、先にも述べたが灰釉陶器の搬入量が少なく、尚かつ他形式の混入が見られない当遺跡の例は逆に灰釉陶器の年代観をそのまま反映しているようにも思う。現在の研究成果に拠れば、黒笹14号窯式期が9世紀前半、黒笹90号と光ヶ丘1号窯式期が9世紀後半、大原2号窯式期が10世紀前半とされている。これらの事から供搬関係を基にすると榛名平Ⅲ期が9世紀後半、続く榛名平Ⅳ期が10世紀前半となる。他の時期は前後関係より榛名平Ⅰ期は8世紀末～9世紀初頭、榛名平Ⅱ期が9世紀前半、榛名平Ⅴ期が10世紀後半に比定されよう。拠って榛名平遺跡の古代律令期の集落はほぼ平安時代の範疇に含まれると考えられる。他遺跡との並行関係は次頁の表に示した。

今後の課題としては期設定の細分化であるが、当遺跡においては資料の制約もあり半世紀区分しかできなかった。ただ資料数に恵まれた西一本柳遺跡でも9・10世紀は半世紀区分を取る。このことは佐久平の北部の遺跡である栗毛坂や鋤物師屋と、佐久平の中央部である西一本柳、そして西端に位置する榛名平と遺跡所在地の違いに起因する理由であろうか。また表中「*」をした

期は須恵器環が存在する最後の期であり、遺跡間によって微妙に捉え方が異なるように思う。これらの問題を含め当該期資料が充実してきた今日、遺跡内はもちろん遺跡間での資料の検討を経て、佐久地方全体での広域的な土器編年整備が求められていると考える。ここで言うまでもなく、土器変遷の共通理解無くして集落論も進展はない。

	800				900				1000			
榑名平遺跡	I	II			III*		IV		V			
西一本柳遺跡	II	V			VI*		VII					
栗毛坂遺跡群	4	5	6	7	8	9*	10	11	12	13		
鐘物御座遺跡群	IV	V			VI	VII	VIII*					
高村編年試案	第1段階				第2段階				第3段階			
	古相		新相		古相		新相					

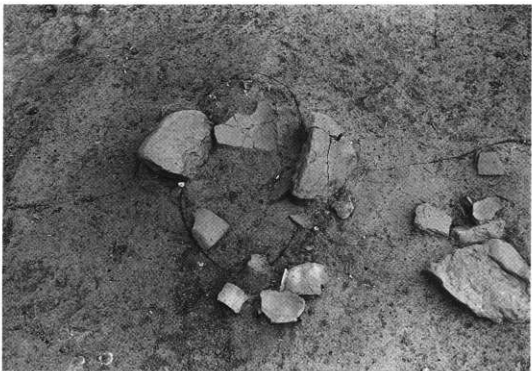
引用・参考文献

- 堤 隆 1987 「前田遺跡」 第5集 御代田町教育委員会
- 堤 隆 1988 「十二遺跡」 第6集 御代田町教育委員会
- 堤 隆 1993 「川原田遺跡」 平安・中世編 第17集 御代田町教育委員会
- 高村 博文 1988 「駒沢・馬石」 第13集 佐久埋蔵文化財調査センター
- 原 明芳他 1989 「古田川西遺跡」 塩尻市内その2 中央自動車道長野総埋蔵文化財調査報告書3
 長野県埋蔵文化財センター
- 寺島俊郎他 1991 「木戸平A・吹付・東林・鶴ラネ・上中原・干草場・城の口・西林・東祿ぶた・西祿ぶた・大屋尻古墳群・丸山古墳群・丸山Ⅱ・丸山・北山寺・東大久保・西大久保・腰巻・栗毛坂・西赤座・中久保田・桃把坂」佐久市内その2 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書2
 長野県埋蔵文化財センター
- 森泉かよ子 1995 「曾根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ 西曾根遺跡Ⅱ・Ⅲ」
 第41集 佐久市教育委員会
- 森泉かよ子 2000 「下聖壇遺跡Ⅳ」 第83集 佐久市教育委員会
- 小林 眞寿 1999 「西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ」 第73集 佐久市教育委員会
- 井上喜久男 1998 「畿外遺跡にみる三彩・緑釉陶器」 日本の三彩と緑釉 愛知県陶磁資料館
- 斉藤 孝正 1994 「東海地方の施輪陶器生産—猿投窯を中心に—」 古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3
 施輪陶器 古代の土器研究会
- 1992 「古代仏教東へ—一寺と窯—」 2窯編 東海埋蔵文化財研究会岐阜大会実行委員会
- 1994 「古代陶器の変遷—信濃への流れ—」 上田市立信濃国分寺資料館

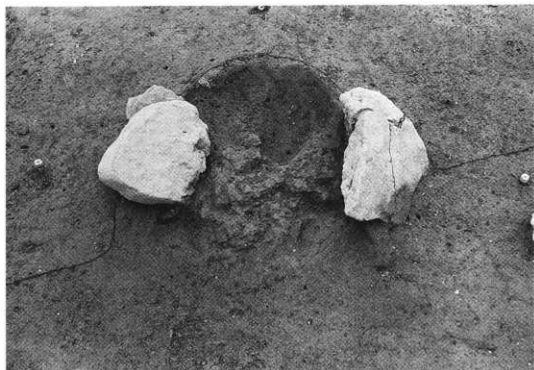
圖 版



① IH10号住居址全景(西より)



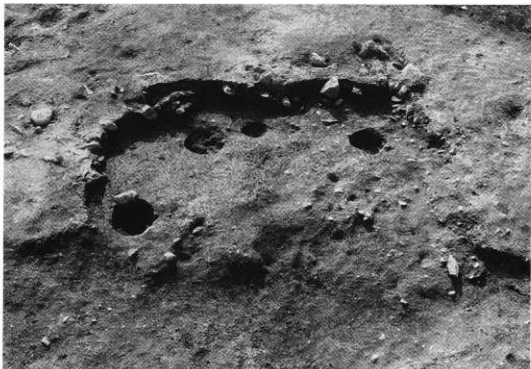
② IH10号住居址カマド検出状況(西より)



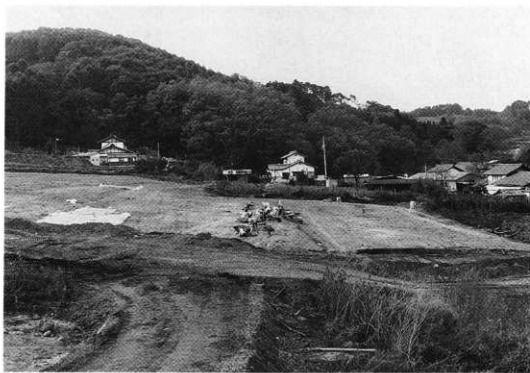
① I H10号住居址カマド全景(西より)



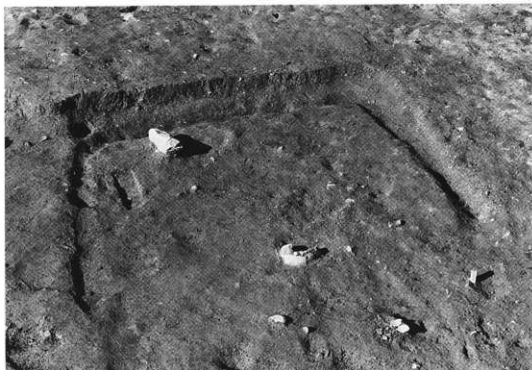
② I H10号住居址南東コーナー遺物出土状況(西より)



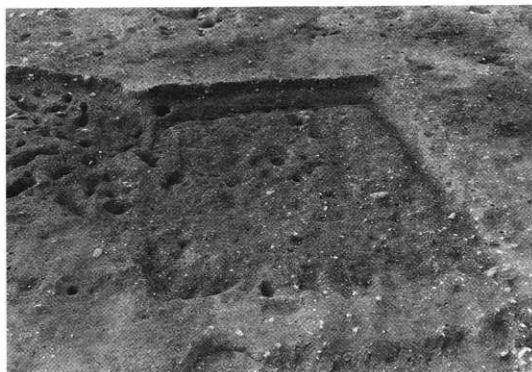
① IH20号住居址全景(北より)



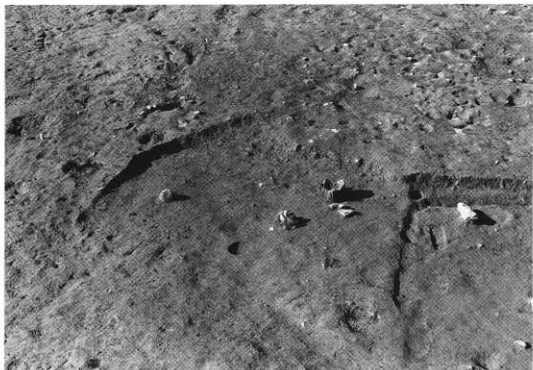
② I区北側調査風景(東より)



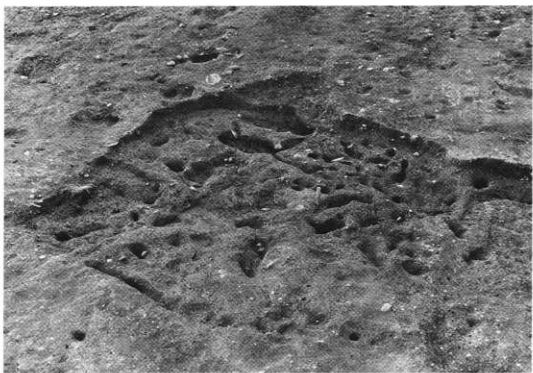
① IH21号住居址全景(東より)



② IH21号住居址掘り方全景(東より)



① IH24号住居址全景(東より)



② IH24号住居址掘り方全景(東より)



① I H25号住居址全景(東より)



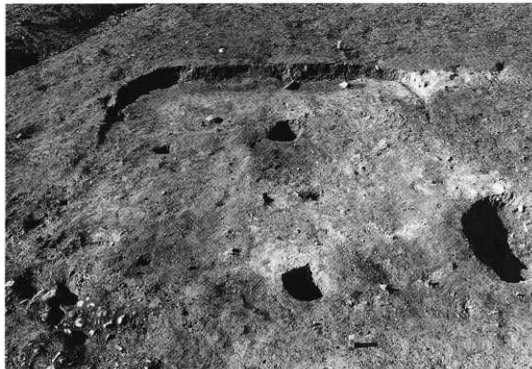
② I H34号住居址全景(東より)



① IH30号住居址全景(東より)



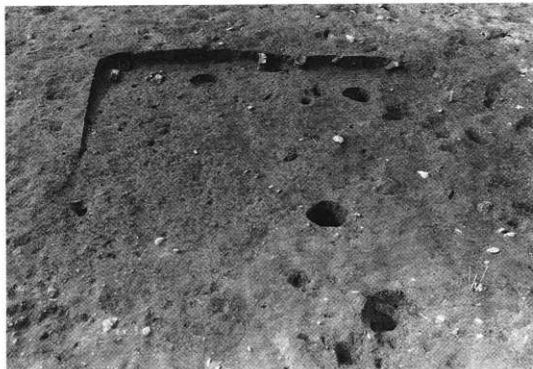
② IH30号住居址掘り方全景(東より)



① I H31号住居址全景(東より)



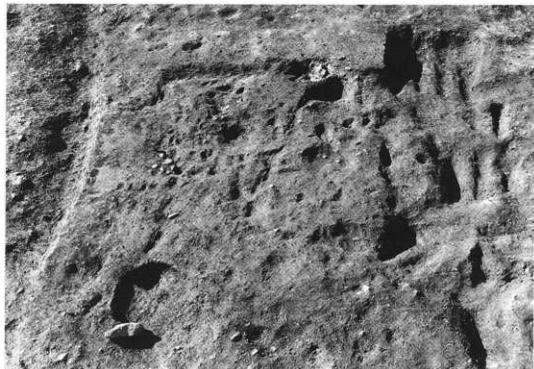
② I H31号住居址掘り方全景(東より)



① IH32号住居址全景(東より)



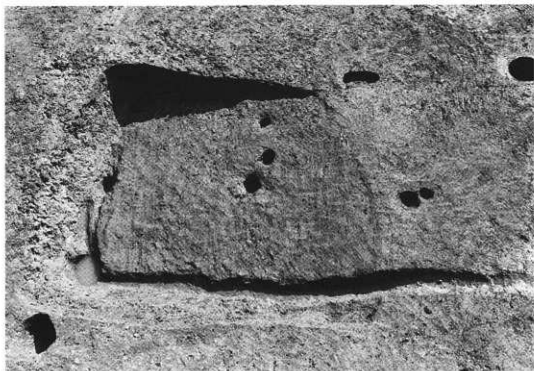
② IH32号住居址掘り方全景(東より)



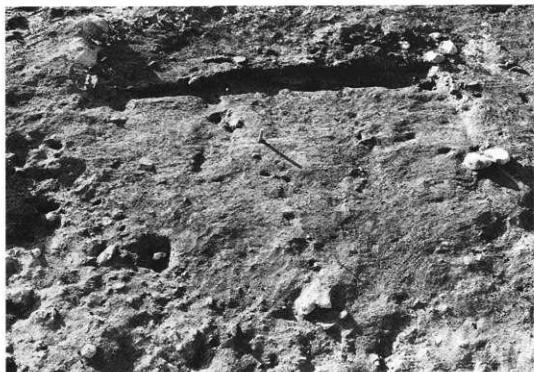
① I H33号住居址全景(東より)



② I H33号住居址掘り方全景(東より)



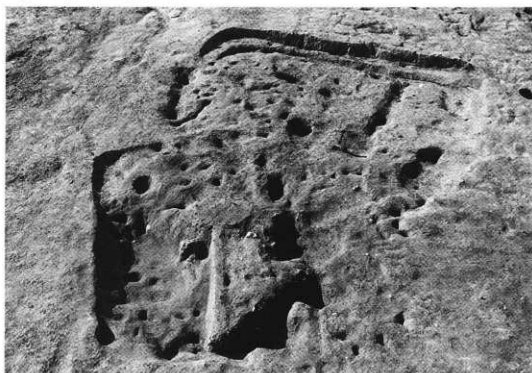
① IH37号住居址全景(西より)



② IH38号住居址全景(東より)



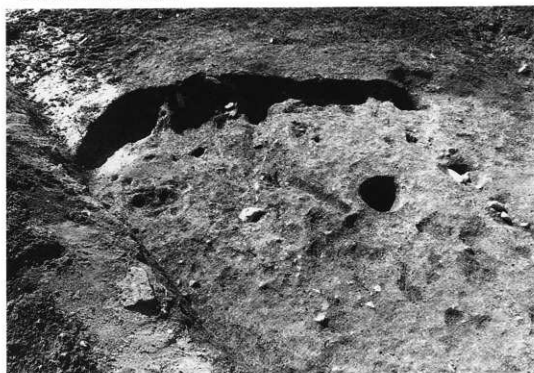
① IH40号住居址全景(西より)



② IH43号住居址全景(東より)



① I H41号住居址全景(北より)



② I H41号住居址掘り方全景(北より)